

# 和歌山信愛女子短期大学 2021 年度 F D 活動報告書

2022 年 6 月

FD・教学 IR 委員会

## 目次

目的 .....	2
1) FD 研修会 .....	3
2) 授業の相互参観 .....	12
3) 授業評価とFD実践報告書 .....	26

## 目的

本報告書は、和歌山信愛女子短期大学(以下、本学という。)のFD・教学 IR 委員会規程に基づき、教職員の能力の保障と開発を目的に、2021 年度に行われたFD(ファカルティ・ディベロップメント)活動について報告するものである。

2021 年度における本学の FD 活動のテーマは、『ICTを活用した教育法』である。このテーマに基づき、教員の教育能力向上を図るために今年度行った FD 活動は以下の通りである。

- I. 2回の FD 研修会
- II. 授業の相互参観
- III. 学生による授業評価とFD 実践報告書の提出



## ○ 第2回FD研修会

日時:2021年12月20日 17:10~18:40

場所:1307 視聴覚室

研修内容:ICT活用力に関する自己チェックと、授業の相互参観及び授業実践の分かち合い

参加者 教員28名 事務職員1名

欠席者 教員0名

## 2021年度 第2回 FD 研修会 出席者名簿

所属	氏名	所属	氏名
生文	伊藤 光	備	大道 210
保育	石川 祐子	食物	西出 充徳
食物	横地 一花	生文	浅口 夏海
保育	小滝 正孝	食物	野志 昌弘
生文	勝本 泰弘	食物	森岡 美帆
生文	東口 依未	生文	山本 裕子
食物	五木田 祐里	保育	金谷 有希子
保	井深 三花	食物	成田 仁英
事務	橋本 真伍	〃	井上 和寿
保	森尾 美也子	保	島原 徹也
保	今西 春寿	食	芝田 史仁
食	堀江 大輔	生	真砂 加子
生文	中西 理尋	保	仲谷 織子
保	渡辺 匠人		
〃	小笠原 真弓		

## 第2回 FD 研修会配布資料:

2021.12.20

第2回FD研修会

## 教員のICT活用指導力チェックリスト（文部科学省平成30年6月改訂版より一部改変）

		FD・教学IR委員会			
		できる	やや でき	あまり ない	ほとんど ない
ICT環境が整備されていることを前提として、以下のA-1からD-4の16項目について、右欄の4段階でチェックしてください。					
<b>A 教材研究・指導の準備・評価・学務などにICTを活用する能力</b>					
A-1	教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。	4	3	2	1
A-2	授業で使う教材や学務分掌に必要な資料などを集めたり、保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。	4	3	2	1
A-3	授業に必要なプリントや提示資料、クラス経営や学務分掌に必要な文書や資料などを作成するために、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	4	3	2	1
A-4	学習状況を把握するために学生の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。	4	3	2	1
<b>B 授業にICTを活用して指導する能力</b>					
B-1	学生の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	4	3	2	1
B-2	学生に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して学生の意見などを効果的に提示する。	4	3	2	1
B-3	知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や学生一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。	4	3	2	1
B-4	グループで話し合っって考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	4	3	2	1
<b>C 学生のICT活用を指導する能力</b>					
C-1	学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を学生が身に付けることができるように指導する。	4	3	2	1
C-2	学生がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	4	3	2	1
C-3	学生がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	4	3	2	1
C-4	学生が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	4	3	2	1
<b>D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力</b>					
D-1	学生が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	4	3	2	1
D-2	学生がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	4	3	2	1
D-3	学生が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	4	3	2	1
D-4	学生がコンピュータやインターネットの便利さに気づき、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	4	3	2	1

2021 年度第2回FD研修会ワークシート

記入日: 年 月 日

グループの教員氏名:

<input type="radio"/> 授業における ICT 活用事例について
<input type="radio"/> 学生の ICT 活用の指導事例について
<input type="radio"/> 教材研究・指導の準備・評価などへのICT活用事例について
<input type="radio"/> ICTを活用して授業を行う際の課題と対応方法について
<input type="radio"/> その他

グループの教員氏名:伊藤、小滝、井上、成田、東口、大道

### ○ 授業におけるICT活用事例について

①山本先生の「地域人材育成論」では、Zoomを使用したインタビュー形式の授業を展開。

(成田)パワーポイントで本日の授業の流れ、Zoomを使用するメリットや使用マナーについて説明を行った上でZoomを使用した授業を開始させていた。インタビューや質疑応答を実施する際、Google フォームを使用し、リアルタイムで学生からの質問を送信してもらい、状況に応じて質問をされていた。

②桑原先生の「社会的養護Ⅱ」では、Zoomを使用し、複数の遠隔地を繋いで毎日新聞社の記者の話聞き、公開ディスカッション形式の授業を展開。

(東口)東京、短大、和歌山大学、保健師のクリニックなど複数の遠隔地とつなげて授業を展開されていて、パワーポイント資料も画面共有されていて、Zoomなど様々なツールを使用し、アクティブに授業を実施できることを学んだ。

(井上)複数の方が参加できる公開ディスカッション授業は学生にとって学びが多く、刺激になったと感じた。トラブル対応や時間内で授業を終わらせるには、事前打ち合わせなどの事前準備がないとできないと感じた。

(伊藤)学生と遠隔地の先生方など同時に参加できる形式の授業は学生にとって学びを深める機会となったと感じたものの、14回の授業すべてをこのような形式で行うのは難しいとも感じた。

(小滝)オンライン形式の授業にも関わらず、タイムラグなしで授業を行っていて、臨場感があった。画面共有していた際、資料が見つからない状況はあったが、その他オンラインの参加者がその場で声掛けがあったことですぐ解決されていた。このような授業がスムーズに進むのは、事前に学生がGoogle フォーム等のソフトを使い慣れているからだと感じると同時に、オンライン形式の授業を行う前に話す内容の基礎知識やオンライン授業のマナーを事前に伝えていたことがあったからできたと感じた。

(大道)Google フォームで学生の意見を集約し、参加者全員に共有することで、学生もお互いの意見や考えを知ることができ、遠隔地から講義を行っている方も、学生の意見や考えを基に話しを進めることができたことを参観してわかった。また、講義されていた記者のパワーポイントに大事なポイントがわかるように工夫されていたため、写真を使用する、動画の音声をミュートにする等、私も自分の授業資料作成時に応用したいと感じた。

### ○ 学生のICT活用の指導事例について

・オンライン授業前にスマートフォンを使用することやZoomの良さや使用ポイントについて学生に伝えていた(例:「知らない言葉の検索、Google フォームでの使用」等、スマートフォンの使用用途についての説明が事前に行われていた)。

・オンライン授業で質問を行う際のマナーについて事前指導が行われていた(例:質問する時はまず自分の名前やお礼を言う。その後に講義を通して学んだことを伝えた上で質問を行う。このような形式に沿ってすべての学生が質疑応答を行っていた)。

・オンライン授業を実施する前に、基礎知識(イスラム国やヤジディー教徒との関係等)について学生たちに伝え、学びを深められるような工夫を行っていた。

・少人数授業では、調べ学習を行っている(例:「○○のワードを検索すると△△の情報を知ることができる」)。

グループの教員氏名： 小笠原、浅田、井澤、石川、榎本、横地

### ○ 授業における ICT 活用事例について

- ・授業内容によっては、ICT の取り入れが難しい教科もある(実技、芸術系)。  
体育では、プロ選手の動画の見本をみせてから、学生が実際に実践する様子を撮影し、どのような違いがあるか比較をするために利用している。客観的に自らを評価、振り返りに活用している。
- ・Zoomを使用した授業では、専門職の講師の方の職場での動きや対応方法などを学生に見せる授業をされていた、学生に臨場感が伝わると感じた。

### ○ 学生の ICT 活用の指導事例について

- ・アンケート集計結果を直後に学生と共有できる。

### ○ 教材研究・指導の準備・評価などへのICT活用事例について

- ・授業準備が大変である(画像の取り扱い、加工、著作権などの問題)
- ・学生に動画による課題をだし、それを学生同士でみることで全員と共有し、お互いに評価するために利用している。

### ○ ICTを活用して授業を行う際の課題と対応方法について

- ・学生に統一のツールが必要(タブレット、コンピュータなど)
- ・Zoom などを活用しての授業には、一人に対応することが難しい。授業担当者以外にサポートをする方が必要である。(アクシデントが発生した場合など)

### ○ その他

- ・著作権の問題について

グループの教員氏名:西出・森岡・今西・仲谷・真砂

### ○ 授業における ICT 活用事例について

- ・遠隔地でも ZOOM を使用してキャリアに関するゲストスピーカーを招いて授業を行っていた。
- ・クラスルームのフォームを使用して、学生からの質問や相談のフィードバックを迅速に行っていた。
- ・QR コードを使用して、情報を取り込みデータを集約していた。
- ・資料を配付せずに、パワーポイントで資料を作成しプロジェクターに映して授業を行っていた。  
またはPDFの資料を携帯で閲覧させていた。
- ・TVなどのメディアの良い情報などを取り入れたり、また動画も利用されていた。

### ○ 学生の ICT 活用の指導事例について

- ・QRコードの使用方法を事前に周知し、説明なして授業を行っていた。
- ・ZOOM の使い方、基本的な使用方法から説明を行っていた。
- ・就職活動の講義では ZOOM を活用して、学生からの質問や相談をフォームで集め答えていた。
- ・少人数での授業である為、学生同士の理解力が高められていた。
- ・動画を閲覧して説明を行っていた。

### ○ 教材研究・指導の準備・評価などへのICT活用事例について

- ・QR コードを使用するには、読み取り用 QR コードの準備を行っている
- ・QR コードを使用すると、クラスルームのパスワード忘れの学生に対応出来る。
- ・ICT の授業環境を整える事前準備(相手との打ち合わせや ZOOM を使用する環境設定)を行っている。
- ・フォームを使用することでスプレッドシートを使用して、データの集約がリアルタイムに出来ている。
- ・小テストなどはフォームを使用して行い、復習を兼ねて記述式の小テストも行っている。

### ○ ICTを活用して授業を行う際の課題と対応方法について

- ・情報がすぐに得られる反面、学生の思考力が低下する事が考えられる。対応策として記述式などの解答の回数を増やす。
- ・1人1台、タブレットもしくはPCを使用する。課題としては職員の知識向上と学生のレベルの個人差、電子書籍にするならば著作権の問題などを課題とし、対応策としてパソコンや著作権に関する専門知識のある人材にサポートしてもらい環境を作るようにする。
- ・画面を通してディスカッションが一方通行にならないよう、コミュニケーション不足についてもあげられた。

### ○ その他

- ・ICTだけではなく、ペーパーを利用した授業も必要であるが、ICTを使用していく上ではペーパーレスは不可欠になっていく為、学生も教員もどのような環境と授業準備が必要であるか考えていく必要があると感じた。

グループの教員氏名： 勝本、中西、桑原、堀江、金谷

### ○ 授業における ICT 活用事例について

- ・Google Classroom の Forms を活用  
アンケート収集や課題提出を Forms で行っている授業が複数見られた。スマートフォン (Google Classroom) を活用し学生の意見を集めることで、普段は発言できない学生も意見を述べられる機会が増える。全員が意見を発信できるツールとなっている。
- ・Forms で提出されたアンケートのフィードバック  
アンケートをすぐに集計、グラフ化しスクリーンに映し出すことで視覚的にも分かりやすいものとなっていた。
- ・ZOOM の活用  
外部講師と ZOOM で繋ぎ、講義やインタビューなどを行っている授業があった。ZOOM の活用は外部の先生から話を聞ける機会が増え、効果的なツールとなっている。

### ○ 学生の ICT 活用の指導事例について

- ・ZOOM の使用方法を指導。(マナー等含む)
- ・アンケート等を行う際の情報の取り扱い方法を指導。
- ・オンラインツールの使い方の指導。

### ○ 教材研究・指導の準備・評価などへの ICT 活用事例について

- ・インターネットを活用しての情報収集  
最新の情報や正確なデータ、論文などを収集する際に使用している。
- ・ICT の活用と紙媒体の両方を組み合わせ有効的に使用

### ○ ICT を活用して授業を行う際の課題と対応方法について

- ・教員側の ICT 活用における知識量が必要である。
- ・著作権の取り扱いについての研修会などがあれば良い。
- ・学生個人のスマートフォンで一斉に容量の大きい動画などを見せる場合、通信がパンクしないか懸念される。

### ○ その他

2021 年度第2回FD研修会ワークシート

記入日: 2021年/2月 20日

グループ D  
グループの教員氏名: 森定先生, 山本先生, 野志先生, 渡辺先生, 石木田(記録)

Zoom

<p>○ 授業における ICT 活用事例について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ Google Classroom を利用。学生が自由記入 → 発表(あり)。発表が授業の始めと終わりあり。Google Classroom の意見(と QR コード)も利用。</li> <li>◦ 最初には Google Classroom で復習の時間をとっていた(小テスト?) → 小テストの不正について</li> <li>◦ 外部サイトに利用して発表。外部 HP の紹介。日本疫学用語の基礎知識を学生に紹介 → 事前準備がなかった。</li> <li>◦ オンライン会議 (Zoom) → 事前準備はとて不足。質問収集は Google Classroom で意見収集して学生に共有はした。</li> <li>◦ 画面上で、精神病患者の扱い体験をしてみた(リアル) → 冒で体験してみた web 上にも多々ある。</li> <li>◦ 体験の目的に Facebook, Apple など → Apple はどうも → Apple はどうも → 講義の難問を曲げてみることに意図を込める。</li> </ul>
<p>○ 学生の ICT 活用の指導事例について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ QR コードの利用 → 初めは、あり。* 回答率も上がった。</li> <li>◦ Google Classroom での ICT 活用の事例は、学生への指導で、(個人間の利用)を促してあげる。</li> <li>◦ 教員がインテグレーションでも、Google Classroom にはある。</li> <li>◦ 個別に 対応する時間も必要に感じている。</li> <li>◦ Apple が苦手な学生もいる → 教員側で、Apple 文書を Word に変換して学生にメール → 学生は英文をコピーして。</li> <li>◦ 後出しは出さず、拒絶も指導が難しい。</li> </ul>
<p>○ 教材研究・指導の準備・評価などへの ICT 活用事例について 準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ オンライン会議の場合、事前に相手と相談し、内容をまとめる 実施可能。(インテグレーション)</li> <li>◦ 外部 HP を紹介する時は、URL を Word など、別なツールに見つけて、授業スライドに進行可能にする。</li> <li>◦ 教室に導入して、音に合わせて、事前準備!! して準備可能。</li> </ul>
<p>○ ICT を活用して授業を行う際の課題と対応方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ Google Classroom を利用した小テストに関して、不正を行わない方法はないが、(意見のやり取り、不正はよくないと思われ)</li> <li>◦ Google Classroom での利用方法を教える時間を短縮したい。</li> <li>◦ 利用者の技術的知識を問うのは大切!! → どう教える? → 回数で教える代わりに練習問題? → 適切な学生もあつた。 → 慣れた人でも Google Classroom は難しい。(2021)</li> <li>◦ 撮影を止める学生もいる(うっかり押し) → 学生には、事前に伝えて許可と得る必要がある。</li> <li>◦ 急に機器が動かなくなるなどの対応 → 事前準備の必要性も大きい。3D プリンタも必要かも。</li> </ul>
<p>○ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 体験で、リアルタイムに動く画面をうつしていたので、録音も原音にも利用した。</li> <li>◦ Apple など、機器類の対応は、Apple は大変である。</li> <li>◦ 私たちが自身も ICT を学ぶ必要がある。</li> </ul>

意図を込めてみる。

共有

## 2) 授業の相互参観

実施期間:2021年11月29日(月)~12月17日(金)

参加教員:専任の全教員(助手を含む)。非常勤教員は任意

対象科目:下記参照

方法:全教員(助手を含む)が、指定された参観対象科目から最低1科目を選んで参観する。参観内容は所定の報告書にまとめて提出する。

2021年度授業参観対象科目一覧 (期間:11月29日(月)~12月17日(金))

日程	時間帯	学科(学年)	授業名	担当者	教室	参観希望 (1科目は3人まで)		
11月30日(火)	1・2限 (9:00~10:40)	食物1年	保健体育実技	石川	体育館			
12月1日(水)	3・4限 (10:50~12:30)	保育2年	社会的養護Ⅱ*	桑原	1227 (セシリアホール)			
	3・4限 (10:50~12:30)	生文1年	地域人材育成論*	山本	1506			
12月2日(木)	1・2限 (9:00~10:40)	生文1年	保健体育実技	石川	体育館			
	1・2限 (9:00~10:40)	保育1年	保育実習指導Ⅰ	金谷	2212 (1A HR)			
	3・4限 (10:50~12:30)	保育1年	保育実習指導Ⅰ	金谷	2301 (1B HR)			
12月3日(金)	5・6限 (13:20~15:00)	保育2年	国語表現	小滝	1309			
12月6日(月)	5・6限 (13:20~15:00)	全学1年	紀の国の自然	芝田	1227 (セシリアホール)			
12月7日(火)	1・2限 (9:00~10:40)	保育1年	教育課程論	渡辺	2212 (1A HR)			
	3・4限 (10:50~12:30)	保育2年	子育て支援	大道	1218 (2B HR)			
	7・8限 (15:10~16:50)	保育1年	教育課程論	渡辺	2301 (1B HR)			
12月8日(水)	1~4限 (9:00~12:30)	食物1年	食品学Ⅱ	西出	1307 (視聴覚教室)			
	7・8限 (15:10~16:50)	保育2年	パーカッションⅡ	仲谷	2101 (音楽教室A)			
12月9日(木)	1・2限 (9:00~10:40)	生文2年	情報文化論	勝本	1304 (HR)			
12月14日(火)	5・6限 (13:20~15:00)	食物2年	心理学入門	森定	1307 (視聴覚教室)			
12月15日(水)	1・2限 (9:00~10:40)	生文1年	地域人材育成論	山本	1506			
	5・6限 (13:20~15:00)	保育1年	保育内容演習(健康)	今西	2301 (1B HR)			
12月16日(木)	3・4限 (10:50~12:30)	生文2年 食物2年	健康管理概論	森岡	1307 (視聴覚教室)			

\*Zoomなどオンラインによる授業

## 相互参観報告書

2021 年度 授業相互参観報告書

記入日: 年 月 日

記入者所属・氏名:

科目名:	担当者:	参観日: 年 月 日
<b>○ 授業における ICT の活用(以下、例)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータ等を活用して資料などを効果的に提示している。</li> <li>・コンピュータ等を活用して学生の意見などを効果的に提示している。</li> <li>・学習用ソフトウェア等を活用して、繰り返し学習する課題や学生一人一人の理解・習熟度に応じた課題等に取り組みさせている。</li> <li>・グループで話し合っって考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品等を制作したりする等の学習で、コンピュータやソフトウェア等を効果的に活用している。</li> <li>・遠隔地や海外等との交流で活用している。</li> </ul>		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<b>○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータ等の基本的な操作技能を学生が身に付けることができるように指導している。</li> <li>・学生がコンピュータやインターネット等を活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導している。</li> <li>・学生がワープロ・表計算・プレゼンテーションのソフト等を活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導している。</li> <li>・学生が互いの考えを交換・共有して話し合い等ができるよう、コンピュータやソフトウェア等の活用を指導している。</li> </ul>		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<b>その他参考になったこと</b>		

生活文化学科  
生活文化専攻

記入者所属・氏名：生活文化専攻 浅田 真理子

科目名:地域人材育成論	担当者:山本 桂子 先生	参観日:3年12月1日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・zoom を用いて外部講師にインタビュー形式で授業を実施。コンピュータを活用した効果的な実践例である。</li> <li>・zoom を使用する前にパワーポイントを活用し、資料提示を行った上で授業の全体像を示しており大変わかりやすいと感じた。</li> <li>・この授業での実践だけではなく、実際のビジネスの中で zoom を含めたオンラインがどのように活用されているか具体事例を挙げて説明されていた。</li> <li>・学生からの質問をグーグルフォームを用いて授業内で送信させており、さまざまなツールが活用されている。</li> </ul>		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・zoom の活用方法、操作方法について効果的な説明がなされていた。</li> <li>・単なる操作方法の説明だけではなく、コミュニケーションの質を向上させるためのポイントやアドバイスがあり、就職活動などにも活用できる工夫がなされていた。</li> <li>・学生全員が主体性を持って参加できるための工夫が、さまざまなICTツールを併用してなされていた。</li> </ul>		
その他参考になったこと		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の体験談をふまえ、ビジネスの場でICTを活用されている事例などの紹介があり、説得力があり学生の興味関心が深まると思われる取組がなされていた。</li> </ul>		

記入者所属・氏名：生活文化学科 生活文化専攻 勝本泰弘

科目名:地域人材育成論	担当者:山本 桂子	参観日:2021年12月1日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Zoom を活用し、個人授業主にインタビュー形式で生の声を学生に届けることができ、学生にインパクトを与える授業であった。</li> <li>・GoogleForm を活用して、学生の個人授業主への質問を短時間で把握集約し、有用なものを選択して、効率的に質問することができた。</li> </ul>		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が自分の考えを、スマートフォンを使って GoogleForm に迅速に書き込み、送信することができるように指導している。</li> <li>・Zoom の使い方を適切に指導できた。</li> </ul>		
その他参考になったこと		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器整備の問題であるが、教室によっては、大きさ等の関係もあり、プロジェクター内臓のスピーカーが聞き取りにくい教室もあるので改善が必要である。</li> <li>・YouTube 等を授業に活用する場合の著作権的な問題について、適切な研修を今後お願いしたい。</li> </ul>		

記入者所属・氏名： 生活文化学科 生活文化専攻 中西 淳平

科目名：地域人材育成論	担当者：山本 桂子	参観日：2021年12月1日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) レジユメ(紙)を配付(ただし、穴あき) → 解説(授業資料)は PowerPoint で提示 → 穴埋めをさせる</li> <li>(2) オンラインビデオ会議ソフト Zoom について説明(何をするためのソフトか)</li> <li>(3) Zoom に類似のソフトを紹介</li> <li>(4) 実際に Zoom を使って、遠隔地におられる方に(先生が)インタビューを実施</li> <li>(5) インタビュー進行中に、Google Classroom および Google Forms で学生から質問を受付、回収 → のちほど、Zoom で質問</li> </ol>		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) Zoom を使う際に注意すべきこと、基本的なマナーについて、学生に解説</li> <li>(2) 特に、就職活動で Zoom を使うときの注意点を解説</li> <li>(3) インタビュー進行中に、学生から質問を受け付ける。手段として、Google Classroom および Google Forms を利用した</li> <li>(4) インタビュー終了後、学生に感想を書かせ、Google Forms で提出させた</li> <li>(5) また、追加の質問があれば、それも Google Forms で提出させた</li> </ol>		
その他参考になったこと		
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) インタビューと Zoom は非常に相性がいいように思う。</li> <li>(2) Zoom でインタビューする PC と、Google Classroom および Google Forms で学生の質問を拾い上げる PC は、別に用意した方がいいかもしれない</li> <li>(3) 今回の Zoom の参加者は、インタビューをする人(先生)とインタビューを受ける人の 2 名。もう一人、教室を写すカメラ(受講学生全体)がいてもよかったかも</li> </ol>		

記入者所属・氏名： 山本 桂子

科目名：保健体育実技	担当者：石川先生	参観日：2021年11月30日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に合わせたダンス、ストレッチでウォーミングアップしている。</li> <li>・大きなデジタル時計で決められた時間をみんなで確認している。</li> <li>・タブレット、プロジェクタを使用しダブルダッチの動画を見せ、動き方を確認している。一人の指導者ではお手本を見せることができないことに応用できる。</li> <li>・ダブルダッチの間にも音楽を流し、縄を回すタイミングを取らせていた。</li> <li>・ダブルダッチに取り組んでいる様子をタブレットで撮影、スクリーンで再生、みんなで動きを確認しながら良い点、気を付ける点を指導していた。自分の動きを客観的に見ることができるので、わかりやすそうだった。</li> </ul>		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は特に使い方の指導などはなかったが、タブレットで撮影、スクリーンで再生、という流れは学生の中で自然に受け入れられており、学生たちがスマートフォンを使用して同じようなことをすることも抵抗なくできそうだと感じた。</li> </ul>		
その他参考になったこと		

- ・動画視聴をしてすぐに動き、またその動きをすぐに確認できるという流れは、理論と実技とを繰り返して指導する場面に役立ちそう。ビジネスマナーや面接対策の授業に取り入れたい。
- ・体育館でプロジェクタを使うのは難しいと思い込んでいたが、場所を選ばず活用できるツールであると認識した。
- ・プロジェクタを使用するときはパソコンを使うことが多いが、タブレットやスマートフォンを使用することで気軽に使える場面が増えると感じた。

記入者所属・氏名：生活文化専攻 東口依未

科目名：社会的養護Ⅱ	担当者：桑原先生	参観日：2021年12月7日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京と信愛をつないで交流ができるように活用されていた。双方だけでなく、和歌山大学付属の教員ともつながっており、いろんな人たちとの交流が可能となっていた。</li> <li>・東京から講師がパワーポイントを操作し、それが信愛でも見られるようになっており、遠くにいても目の前で講師によって講義がされているような錯覚を覚えた。すごくよかった。</li> <li>・東京から参考資料の映像も見られることに驚いた。 どんな事までだったらできるのか、どんな機能をどんなツールで使えるのか把握して慣れておかないと使うのは難しいように思う。取り入れるには、まずはこちらが学ぶ必要がある。</li> </ul>		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・画面の向こう側の講師の質問に対して、学生に Google クラスルームのフォームを用いてアンケートを行う場面があった。授業中に提出と集計を行い、画面に表示することで、学生と講師側の両方に共有できるようにしていた。 フォームは学生の認識をアンケート調査の実施をしていた。その結果を画面に表示しており、学生も講師側にも分かるようになっていた。その結果を見て、講師が学生の現状の認識把握となり、今後の参考として使用するとのことだった。</li> <li>・出席や授業の感想などもクラスルームを使い、感想は期日までであればいつでも受け付けられるよう学生に融通が利くようにしていた。</li> </ul>		
その他参考になったこと		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信環境が整っており、情報のスキルや方法を熟知していれば、距離は関係なく授業を行うことが可能になるということが再確認できた。いろんな人を招くことが可能で、学生もいろんな方との関わりから知識の幅を広げられるように思う。</li> <li>・学生の意見や質問も、瞬時に遠方にも伝えることができ、お互いのほしい情報や知りたいことをすぐに共有できるというのが良い所だと思う。</li> </ul>		

記入者所属・氏名：生活文化専攻 真砂 みづほ

科目名：地域人材育成論	担当者：山本 桂子先生	参観日：2021年12月12日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PC を活用し、課題となる動画を提示して授業外でも閲覧できるように誘導している。</li> <li>・PC を閲覧して出た課題に関して、携帯(PC)を利用して課題作成に取り組ませている。</li> <li>・課題に関する情報を携帯(PC)を利用して、調べるように取り組ませている。</li> <li>・授業外でも、授業に関する資料などを閲覧できるように誘導している。</li> </ul>		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に情報を取り入れるように指導している。</li> <li>・大画面ではなく、個々のPCをみる事で、学生各自のペースで授業を受ける事が出来る。</li> </ul>		
その他参考になったこと		

・PCを使用することによって、あらかじめ資料の用意が不要となり、ペーパーレス化が図れる。

## 生活文化学科

## 食物栄養専攻

記入者所属・氏名： 西出充徳

科目名:教育課程論	担当者:渡辺直人	参観日:2021年12月7日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) 授業開始時に QR コード記載の配布資料を使って学生達に携帯電話から Google Form にアクセスさせ、授業で行われる箇所の質問について回答させていた。回答した内容は、教員側の端末(ノートPC)に集計され、その回答内容を教員は確認しながら授業を進めていた。		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) 今回は、既に QR コードについての扱いを学生側に周知されていたためか、ICT に関する取扱いの説明は行われていなかった。		
その他参考になったこと		
利点として、自発的な発言をする学生が少なくなる中で、発言することを躊躇する学生にとっては携帯などの端末を使って意見を述べる事が出来ることについては評価できた。 また、ICT 活用はペーパーレスであるため、QR コード専用の用紙と授業に用いる問題用紙が別々に配布されていたので、問題用紙に QR コードを添付すればペーパーレスが可能ではなかったかと思われた。		

記入者所属・氏名： 生活文化学科食物栄養専攻・森岡美帆

科目名:地域人材育成論	担当者:山本桂子先生	参観日:2021年12月1日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) ・プリントを配布し、パワーポイントを活用して効果的に授業内容を提示していた。 ・グーグルクラスルームのフォームを活用して、学生からの質問、振り返りを迅速に回収していた。 ・遠隔地にいるゲストスピーカーに対して、Zoom を用いてインタビューを実施していた。		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) ・オンライン会議ツールの Zoom について、体験を交えながら具体的に基本的な内容から分かりやすく解説されていたので、学生が使ってみたいという気持ちになる指導であった。また、パソコンを使いこなすことの重要性を説明されていた。 ・就職活動での注意点、基本的なマナーを画面で表示しながら説明されており、学生にとって有益な内容であった。		
その他参考になったこと		
・理論の説明をしてから実際に体験をするという流れで、学生は、より理解が深められると思った。		

記入者所属・氏名：生活文化学科食物栄養専攻・芝田 史仁

科目名：社会的養護Ⅱ	担当者：桑原 徹也	参観日：2021年12月1日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) ZOOMのテレビ会議システムを用いて、遠隔地の話題提供者とつなげ、生の情報を学生に伝えていた。大型スクリーンに ZOOM 画面を映し出すことで、その場に演者がいるかのような臨場感を作り出せていた。テレビ会議には8名(記者、大学教員、産婦人科医、助産師、NGO代表、研究者など)が参加されていた。記者が海外の現地取材で得た情報を現地の写真やインタビューを、その場でいたものでしか伝えられないリアル感で話して下さったのがとても印象に残っている。また、学生の反応を Google クラスルームからフォームのアンケート機能を用いて集約し、即座にグラフとして画面共有することで、演者と学生へのリアルタイムのフィードバックを可能にしていた。さらに、質疑応答の時間では、現地と本学の距離を感じさせないやりとりがあり、オンラインならではの良さを感じ取ることができた。最後に、本学以外の場でこのテレビ会議に参加されていた大学教員や助産師、研究者と記者とのやりとりを学生が視聴する機会もあり、学内にいながら社会的な視野を広げるきっかけにもなったのではないかと思います。		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) 学生は携帯電話等の情報端末を使用し、アンケートに答えていたが、トラブル無くスムーズに使用できており、事前の指導が行き届いていることが分かった。携帯電話をマナーモードにするなど、参加するうえでの注意点も指導されていた。		
その他参考になったこと		
学生の様子から、テレビ会議における意見の伝え方など、事前に指導していたことが垣間見えた。		

記入者所属・氏名：生活文化学科 食物栄養専攻・井上 和彦

科目名：社会的養護Ⅱ	担当者：桑原 徹也	参観日：2021年12月1日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>Zoom を利用して、新聞記者による講演を中心に行った。なお、途中で画面共有をしてスライドや映像を見せるなどの工夫があった。</li> <li>また、講演途中に学生に質問を投げかけ、Google Classroom で回答し、集計結果をもとに話を展開していった。</li> <li>Zoom を利用して、新聞記者が支援学校教員と意見交換や質疑応答を行った。その内容を学生が視聴する、公開討論のような形式を取り入れていた。</li> </ul>		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中に Google Classroom でアンケートを実施したが、全員が指示通りスムーズに操作を行っていた。普段から、このような操作を多用して授業を進めていると思われる。</li> <li>演者に対しても臆することなく積極的に質問していた。授業への真摯な取り組みが見受けられた。</li> </ul>		
その他参考になったこと		
<ul style="list-style-type: none"> <li>Zoom を使えば、演者を招かなくても講演を聞くことができ便利だと思った。普段の座学とはことなるスタイルなので、学生には面白い時間になったと思われる。</li> <li>意見交換では、専門職の方々がどんな考えを持っているか、どんな視点から物を見つめているのかを知れるので、学生は視聴するだけでも興味があったのではないかと思います。</li> <li>自分の授業でも、このような取り組みを採用してみたいと思う反面、そこまでの技術が伴っていないことに不安を感じる。今回は自分の分野外の授業であったが、自分の担当分野に類似した内容で ICT を活用している例をネット等で検索し、学んでみようと思った。</li> <li>今回は複数の演者が参加していたが、100 分間という授業時間内でどこまで話し合いができ、結論を出せるのか、事前に綿密な打ち合わせが必要だと感じた。また演者のスケジュール</li> </ul>		

ル調整など、困難な点もあったのではないかとと思われる。

記入者所属・氏名：生活文化学科 食物栄養専攻 野志昌弘

科目名:教育課程論	担当者:渡辺直人	参観日:2021年12月7日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の最初と最後において、受講生への質問をグーグルフォームにて投げかけ、その回答はプロジェクターを用いて白板に投影することでリアルタイムにて受講生全体で共有できるようにしていた。</li> <li>・上記のグーグルフォームへのアクセスに QR コードを利用しており、接続への時間短縮がはかられていた。</li> </ul>		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・QR コードは、日常生活でも身近なものとなってきており、その利用方法を学ぶ機会となっている。</li> <li>・フォームへの回答内容について、授業以外の目的で使用しない旨を配布 QR コード用紙にて明確に示しており、ネットリテラシーに触れる機会となっている。</li> </ul>		
その他参考になったこと		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の指導が必要であったと推察されるが、QR コードの読み込みは特にもたつく学生も目立たなかった。</li> <li>・本講義中には使用されなかったが、フォームの集計結果を別ツールにて解析することで、受講クラス全体での理解について解析を行い、指導内容および授業計画に反映する予定であったと担当者よりうかがった。</li> </ul>		

記入者所属・氏名：生活文化学科食物栄養専攻 成田仁美

科目名:地域人材育成論	担当者:山本桂子	参観日:令和3年12月1日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Zoom を使用したインタビュー形式の授業を展開。</li> <li>・パワーポイントで本日の授業の流れ、Zoom を使用するメリットや使用マナー等のオンライン会議ツールを使用する上でふまえるべきことを説明し、Zoom を使用した授業を開始させていた。</li> <li>・インタビューや質疑応答を実施する際、Google フォームを使用し、リアルタイムで学生からの質問を送信してもらい、状況に応じて質問をされていた。</li> </ul>		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業前にスマートフォンを使用することや Zoom の良さや使用ポイントについて学生に伝えていた</li> <li>・全員の学生が質問フォームを開けるか確認されていた。</li> </ul>		
その他参考になったこと		
・スライドの明るさや音声などの動作環境について配慮されていたこと。		

記入者所属・氏名：生活文化学科食物栄養専攻・堀江大輔

科目名:地域人材育成論	担当者:山本桂子	参観日:2021年12月1日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーンにパワーポイントの画面を映し出し、重要事項を中心に画面で示していた。画面内の</li> </ul>		

<p>文字数が多くならないように配慮されており、見やすかつ先生の説明を聞きやすいような構成となっていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・zoom を用いて、外部講師とオンラインでつながり、インタビュー形式の講義を行っていた。外部講師とのやり取りは授業担当者の教員が行い、学生からは google form を用いて質問を集めていた。教員側で時間管理をしやすい方法である点と思われ、実施しようとした場合の参考になった。</li> <li>・google form を用いて学生から、外部講師への質問とメッセージを集めていた。集約の状況はわからなかったが、教員を通じていくつかの質問が抜粋されて外部講師へ投げかけられていた。集約の時間短縮の効果と、周りの目を意識し挙手で質問をできない学生からの意見を集めやすい効果があると感じられた。</li> </ul>
<p><b>○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)</b></p> <p>(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業テーマの一つに「オンライン会議ツールについて学ぶ」ことが設けられ、オンライン会議ツールについて、担当者の経験などを交えて具体的な指導が行われていた。使用時に準備する事項を含めた注意点が示されており、実際に初めて使用する際にも失敗しないように指導されていた。</li> <li>・PC スキルの重要性が示されており、外部講師のインタビュー内容などからもその重要性が強調されていた。スマートフォンの使用が中心の学生も、その必要性を十分に感じられたのではないかとと思われる。</li> </ul>
<p><b>その他参考になったこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン会議ツールの使用は、来学できない講師の話を学生が聞くことができる点で、大きなメリットが感じられた。</li> <li>・google formを利用した質問・意見集約は、集約時間の短縮が魅力的であった。また、遠隔授業などでも学生の参加を促せるものであり、積極的に利用を検討していきたいと感じた。</li> </ul>

記入者所属・氏名： 食物栄養専攻 横地 一花

科目名:社会的養護Ⅱ	担当者:桑原先生	参観日:2021年12月1日
<p><b>○ 授業における ICT の活用(以下、例)</b></p> <p>(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔地の外部講師による講義に ICT を活用することで、遠隔地からの講義を受けることができ、また、その講義についても遠隔の方と学生が共有して講義を受けていた。ICT を活用することで、外部講師による講義などの実施については、難しい点が多くあったが、活用することで実現可能な幅が広がると感じた。また、そのような講義を受けることで、様々な職種、グループの遠隔の方との交流が可能になるため、学生にも興味関心がわき臨場感が味わえるのではないかと感じた。このような講義を行うまでには、授業担当者の準備、学生への指導にかかる時間が多く必要だと思った。</li> </ul>		
<p><b>○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)</b></p> <p>(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)</p>		
<p><b>その他参考になったこと</b></p>		

記入者所属・氏名： 五木田 祐里

科目名:地域育成人材論	担当者:山本桂子 先生	参観日:2021年12月1日
<p><b>○ 授業における ICT の活用(以下、例)</b></p> <p>(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)</p> <p>今回のテーマは「ゲストスピーカーを招いての講演(2)Zoom インタビュー」であり、オンライン会議ツールと個人事業主にオンラインでインタビューを行うことであった。</p> <p>インタビュー前に zoom 等オンライン会議で使用されるアプリケーションの説明、オンラインで対話する際の注意点、確認点、利点欠点を学ぶ。</p>		

Zoom インタビューを実際に体験させることで、想像しやすく、理解が早いようにみられる。学生にとって、将来構想の視野が広がるのではないかと思われた。 質問は Google クラスルームのフォームを使用し、質問を収集⇒zoom 相手に質問する。
<b>○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)</b>
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) 学生自身はインタビューを体験していないが、受け答えの様子や、質問内容の量や時間配分など、実際に見聞きする事が出来る。 質問時間の際は、クラスルームのフォームで意見収集後、相手に質問を行っていた。
<b>その他参考になったこと</b>
当たり前的事だが、事前に相手と話し合いを、進行内容の確認を行っていた。

### 保育科

記入者所属・氏名：小笠原真弓

科目名:社会的養護Ⅱ	担当者:桑原先生	参観日:2021年12月1日
<b>○ 授業における ICT の活用(以下、例)</b>		
(上記活用例を参考に、参観した授業でいた活用方法をご記入下さい。) ・ズームを利用し、実際に海外で取材活動をされた新聞記者との交流を図るという経験を通して、学生達は世界の情勢をグローバルな視点で捉えるきっかけを得られたと感じる。ネットワークを利用して情報を共有し、知識を広めるという ICT の利点が活かした授業が展開されていた。 ・また、授業の後半にリアルタイムで記者の方と学生が質疑応答する場面もあり、発言した者だけでなく、授業に参加していた学生にとっても貴重な体験が得られていた。		
<b>○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)</b>		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) ・授業中、学生がスマホを利用してアンケート調査に参加していた。即時に数値が出され、自分の考えが結果に反映されることで、本授業の内容は夫々の学生にとって身近なものとなったことが窺える。		
<b>その他参考になったこと</b>		
・授業の事前準備として、担当教員は関係者との入念な打ち合わせや学生への事前指導を経て当日を迎えられたことが察せられる。		

記入者所属・氏名：保育科 今西 香寿

科目名:国語表現	担当者:小滝先生	参観日:2021年12月3日
<b>○ 授業における ICT の活用(以下、例)</b>		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) 学生の理解度を深めるために、動画の視聴を行っていた。 課題に対し、ひとつひとつ質問をし、すぐに解答をし、その解答の理由も明確に伝えられていた。 小人数での授業なので、学生もより理解を深めることができるのではないかと思う。		
<b>○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)</b>		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) PC の使い方の苦手な学生は、学生同士で教えあいながら行っていた。小人数だからこそ、できることかもしれないが、教え終わるまで授業を進めることもなかったので、遅れることもなかった。 教える側も理解を深めることができるので、いい取り組みだと思う。		
<b>その他参考になったこと</b>		

記入者所属・氏名： 森定美也子

科目名:健康管理概論	担当者:森岡先生	参観日: 2021 年 12 月16日
<b>○ 授業における ICT の活用(以下、例)</b>		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。 前回の食事バランスガイド確認テストでグーグルクラスルームを使って行っている。 目的:喫煙と飲酒についてスマホで検索 日本疫学会の「疫学用語の基礎知識」を通して、疫学 の概念とコホート研究についてを学ぶ。 クラスルームに資料をアップ 喫煙の害について役立つ web 情報を紹介している。 国立がん研究センター イーヘルズネット 日本医師会資料 禁煙は愛 厚生労働省 全国統一けむい問模試 厚生労働省 eヘルズネット 飲酒のガイドライン アサヒ夢学院		
<b>○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)</b>		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) グーグルクラスルームで前回の授業の確認テストをすることがルーティンになっており、授業の導 入がスムーズである。喫煙や飲酒についてのWEB情報の内容が充実している。		
<b>その他参考になったこと</b>		
授業の前後に確認テストをグーグルクラスルームで行うことにより、習熟度の確認ができる。 検索を経験することで、自分でわからないことを調べる力がつく。		

記入者所属・氏名： 保育科 小滝 正孝

科目名:社会的養護Ⅱ	担当者:桑原徹也先生	参観日:2021 年 12 月 2 日
<b>○ 授業における ICT の活用(以下、例)</b>		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) ・Zoom を用いて、遠隔地の講師と本学も含めた複数会場の受講者との双方向の授業であった。 ・通信が良好で、講師の講義もタイムラグを感じる事がなく、臨場感があった。また、スクリーンに 映し出されたパワーポイントでの資料も、見やすく作られていたし、動画、写真も含めてスムーズに 動き、その迫力に飲まれていった。 ・講師からの質問は、Google フォームで行われ、画面共有で、その回答結果がグラフとなってスク リーンに映され、講師も学生も双方向のやり取りを実感できたようで、場の一体感をもてたようであ った。 ・他会場の一般の方からの質問を聞くこともでき、学生の視点以外のものの見方を学ぶ機会となっ ていた。 ・イスラム国での生々しい写真と実際に取材した記者の生の声を聞くことは、非常にリアリティを感 じるものであった。 ・画面共有でわかりにくい提示があった際、他会場の方から「大きく映して」との要望があり、遠隔 でのやり取りは、このように互いの環境を整えながら進めていくものだという事を学ぶことができ た。		
<b>○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)</b>		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) ・平素からクラスルームを通じて Google フォームを使い慣れていることもあり、操作は円滑に行わ れていた。 ・学生が講師に質問する際、講師へのお礼を述べてから質問に入る、明確に端的に質問するな ど、リモートで見えないからこそ大切にしなければならぬことが指導されていた。		
<b>その他参考になったこと</b>		

- ・換気や明かりの調節を、時間経過等に合わせて配慮されていた。
- ・事前指導が丁寧に行われており、基礎知識を持った上で講師の話聞くことで、疑問点が解決されたり、より深い質問となって表れているようであった。

記入者所属・氏名： 桑原徹也

科目名： 教育課程論	担当者： 渡辺先生	参観日：2021年12月7日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) 授業冒頭、Google フォームを使った質問を QR コード読み取りの形で実施。内容に入る前に、個々の意見を回収し、クラスで共有。その後、文科省による定義などを説明。これにより、学生への問題意識の提示がなされていった。また、挙手は発言では一定の学生に限られてしまうが、フォームの活用により学生全員が意見を述べる場が確保されていた。		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) フォームには、情報の開示方法等、回収したフォームの取り扱いについて明記され、学生に対し情報管理についての意識を持たせる工夫がなされていた。		
その他参考になったこと		

記入者所属・氏名： 保育科 渡辺 直人

科目名：健康管理概論	担当者：森岡美帆	参観日：2021年12月16日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) ・Google Workspace(Google Classroom, Google Form)を利用し、課題・資料を提示している。 ・Power Point を利用し、大画面で提示している。 ・インターネットを利用し、ホームページを閲覧させる。		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) ・スマートフォンを使用し、Google Form で課題をとっている。 ・Power Point をノートに写す。 ・各自、インターネットに接続し、ホームページを検索し、アクセスする。		
その他参考になったこと		
・官公庁や学会のホームページを利用し、参考資料としている。 ・Power Point、Google Workspace、Internet の3種を使用していた。		

記入者所属・氏名： 仲谷 徹子

科目名：子育て支援	担当者：大道えりつ先生	参観日：2021年12月7日
○ 授業における ICT の活用		
・プロジェクターにパワーポイントを映しながら、説明の後、配布の資料の課題をグループで話し合う。 話し合った内容を用紙に記入する。 話し合った結果をグループごとで発表をする。という形式で進められた。 次にプロジェクターに事例の動画を映す。 見た後の感想を書く。 その感想も発表してもらい、共有する。		

<p>和歌山市に放課後デイサービスの施設数を全国と比べてみてどうかを表で示す。(プロジェクター)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の授業の課題の答えをグーグルクラスルームに入り、pdfを参照に答え合わせを行う。学生は自分で採点を行っていた。</li> <li>・答えの記入具合をスプレッドシートで示す。</li> </ul>
<p><b>○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グーグルクラスルームを開き、自分でpdfに示された答えを自分のものと照らし合わせて正しい答えを知ることが出来ていた。</li> </ul> <p>(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。) 改めて、プロジェクターの活用は授業内容伝達に有効であると感じた。(非常にわかりやすい) グーグルクラスルームを使ってpdfを読ませることは、資料削減や使いこなせているなどの利点から、有効であった。(展開が見られた) プロジェクターで動画を投影されていたが、一番後ろの席でも見えやすく機器を使いこなせていた。</p>
<p><b>その他参考になったこと</b></p> <p>パソコンでグーグルのスプレッドシートを映すことが出来るので、速攻性があり理解しやすいと感じた。便利である。何人の人が入力しているのか一目でわかるので、学生も遅れないように入力していた。</p>

記入者所属・氏名： 保育科 大道 えりつ

科目名:社会的養護Ⅱ	担当者:桑原 徹也	参観日:2021年12月1日
<p><b>○ 授業における ICT の活用(以下、例)</b></p> <p>(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストスピーカー2名(株式会社毎日新聞社 千脇康平氏、和歌山大学教育学部附属特別支援学校 性教育ワーキンググループ)を招いたオンライン(Zoom)講義と交流を実施していた。講義終了後に、質疑応答の時間を設け、相互の交流があることで学びを深める工夫をされていた。</li> <li>・Google Formを使用し、学生に対して「イスラム国は国家である。Yes Or No」や「ヤジディー教は知っていますか? Yes or No」等のアンケートを取り、ゲストスピーカーが話す内容に対して学生がどこまで認知しているのかなどの情報を共有するを行っていた。学生同士がお互いの認識などを知る機会になり、講義のトピックにも興味を持ってもらえるきっかけとなると感じたため、授業で活用したいと思いました。</li> <li>・Google Form で出席確認や終了後の感想等を集約していた。</li> <li>・ゲストスピーカーが使用した資料の中で以下の部分が勉強となった。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①写真のみならず、動画を使用してカブールの街並みを紹介していた。音声を消していたため、街並みや風景に集中することができた。動画＝音声ありが当たり前だと思っていたが、ない方が余分の情報が入らず、伝えたいことが伝わる場合があると学びました。</li> <li>②パワーポイント資料:写真を沢山使用し、文字等は最小限にしていた。スライドもシンプルで、トピックスの下に3つ重点が箇条書きされ、わかりやすかった。学生に伝えたい大事な部分のみをスライドで提示し、残りは口頭で伝える工夫をされていた。特にセリフ等、インパクトがある部分はスライド1枚で見やすいようにしているのを見て、スライドをもう少しシンプルにまとめようと思いました。</li> </ol> </li> </ul>		
<p><b>○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)</b></p> <p>(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義が始まる前に、スマートフォンはどの場面で使用するか事前提示し、(出席確認、ゲストスピーカーからの質問アンケート、感想、知らない単語を調べること)マナーモードに設定をするように指導を行っていた。</li> <li>・Google Form で取ったアンケート結果を学生やゲストスピーカーに共有していた。</li> </ul>		
<p><b>その他参考になったこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストスピーカー(千脇康平氏)対学生76名だと、ゲストスピーカーが一方的に話して、質疑応答で終わる形が多いが、Google Form などのアンケートを使用することで、ゲストスピーカーもその情報を基にお話しをすることができると知り、とても勉強になりました。</li> </ul>		

記入者所属・氏名： 金谷 有希子

科目名:社会的養護Ⅱ	担当者:桑原先生	参観日:2021年12月1日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ZOOM を活用し遠隔地(毎日新聞東京本社、他和犬の先生方等数名)と通信し講義を行われていた。イラクを取材した毎日新聞の記者の方を中心に紛争地の現状や問題点を講義された。ZOOM の中でもパワーポイントや写真・動画を使用することで視覚的にも分かりやすいものとなっていた。</li> <li>・学生との質疑応答の時間では、学生の率直な疑問や質問に丁寧に答えてくださっている場面があった。現地を取材した方にしか分からないリアルな声や言葉を画面を通してではあるが返してくれていた。来学しての講義となると、様々な点でハードルが高く実現しにくいのが、ZOOM などを活用することでそのハードルが低くなり、教科書の中だけでは得られない知識を学ぶことのできる授業内容であった。</li> </ul>		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義者の ZOOM での問いかけ(この言葉は知っているか等)に対し、Google Classroom のアンケート機能を用い学生が携帯でアンケートを入力し、アンケート結果をすぐに画面に出している場面があった。2 択の簡単なアンケートである為回答率が高く、またすぐに結果を画面共有し講義者はその結果をもとに話を広げられていた。学生にとっても他者の考えを知ることができる機会であると思った。また講義を聞くだけでなく、アンケートを入力したり、その結果をグラフで見たりすることで、メリハリのある授業になっていると感じた。</li> </ul>		
その他参考になったこと		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートはこれまでは紙媒体が多かったが、Google Classroom 等を活用すると簡単に結果を収集し、データ化することができるため必要な場面で適宜使用したいと感じた。</li> </ul>		

記入者所属・氏名： 保育科 石川 裕子

科目名:国語表現	担当者:小滝先生	参観日:3年12月5日
○ 授業における ICT の活用(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークの解答をワードで入力し、学生が手元で確認できるようにしていた</li> <li>・授業内容に沿った動画の視聴を行い、より分かりやすく伝えていた</li> <li>・パワーポイントを使用し、授業を展開していた</li> </ul>		
○ 学生の ICT 活用の指導(以下、例)		
(上記活用例を参考に、参観した授業で気づいた活用方法をご記入下さい。)		
その他参考になったこと		

### 3) 授業評価とFD実践報告書

#### ① 授業評価

前期7～8月、後期1～2月、授業の最終回で実施

担当教員は、A-ポータルを通じてオンラインで授業評価の結果を確認できる。

#### ② FD 実践報告書

対象教員:全ての専任教員

対象科目:授業評価を受けた全ての担当授業科目

#### 2021年度FD実践報告書

所属 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

1)担当科目名称	2)担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画

<sup>1)</sup>今年度担当した全ての授業(卒研や学外実習など授業評価対象外の科目は除く)について記載する。

<sup>2)</sup>担当クラスは、保2、食1などを記載(A,B等の区別はしない)

## 2021 年度 FD 実践報告書

生活文化学科

生活文化専攻

氏名 浅田 真理子

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
秘書実務 I	生1	通年	1年生前期から通年科目として始まるビジネスマナーの基本を伝える授業であるため、就職活動など興味関心の高い実話などを取り入れるよう心掛けた。	「同じような説明が続いた」との記述があり、丁寧な説明も必要だが、効率よく簡潔に行うことがビジネスの基本であり、今後の授業運営において心掛け、改善していく。
秘書実務 II	生2	通年	2年生対象の科目として、社会人生活に向け、より実践的な内容となるようビジネスマナー演習を多く取り入れることを目標とした。1年次にコロナ禍で演習要素を最小限に抑えた学年であることも鑑み、グループやペアワークを多めに行った。	「席の穴を詰めてほしい」との要望があった。コロナ禍において座席配置は難しい問題もあったが、できる限り学生が受講しやすい環境を構築していきたい。 「社会に出たときに必要となる内容だった」という記述が多く、一定の効果が得られたと考える。
消費生活 論	生2	後期	前年度、全回を遠隔授業で実施した科目であり、その際作成した 구글クラスルームでの課題フォームや資料、動画を対面授業にアレンジし活用した。	「動画があり、わかりやすかった」とのコメントがあり、対面授業の中でうまく遠隔授業で活用した要素が活かされた。動画の音声小さかったため、活用においては質の向上を目指したい。
会計学	生2	前期	「会計学」という堅苦しい科目名のイメージを、身近なものに感じられるよう、地元企業の会計情報を取り入れるなど工夫を行った。	「練習問題がもっとあればよい」という記述があり、項目により受講生のレベルに応じ難易度を上げるよう工夫したい。
秘書学概 論 I	生1	前期	ビジネスや組織の仕組みを理解しやすいよう、事例紹介を心掛けた。また、知識の定着を図るため秘書検定の過去問題等を活用し、実際のオフィス業務場面を想定して理解できるように取り組んだ。	各項目の評価の観点も重要であるが、特にこの科目については自由記述数が複数あり、「ビジネスマナーや社会で役立つことが学べた」等の意見があり、一定の効果が得られた。より実践的な内容を取り入れていきたい。
秘書学概 論 II	生2	前期	この科目の前提となる、「秘書学概論 I」を遠隔で行った学生が対象であるため、復習の機会となるよう、また理解を深めイメージがしやすいよう出来る限り画像や現物を提示した。	「秘書学概論 I をより深めた内容であった」との記述があり、一定の効果が得られたと思われる。 「授業開始時の立って行う挨拶が長く疲れた」との指摘があり、学生の様子に十分配慮して実施するよう改善する。
フードコー ディネイト	生食2	通年	生食合同で行う授業であり、教員もオムニバス形式になるため、つながりが明確になるよ	「講義と調理の実習の組み合わせが楽しかった」という記述があり、フードコーディネーター資格取得

			う取り組んだ。担当回については、できるだけ画像などを活用し、グーグルフォームで作成した課題なども取り入れた。	のための実践的な科目としての一定の役割を果たせたと感じる。授業で使用する道具等について、現代の流行を取り入れていくことが望ましい。
生活文化論	生2	前期	生文専任教員のオムニバス形式であるため、生活文化専攻の特色を、最終的にはすべてが繋がってくるよう伝えられるような内容を心掛けた。また、自身の担当回では、別の授業との関連性や特性を活かしながら、少し踏み込んだ内容となるよう工夫した。	評価項目の中でも、「この授業について興味関心が持てた」について非常に高い評価が得られた。オムニバス形式の工夫について一定の評価が得られた。後期の生活文化ゼミにつなげる授業として、より専門的な内容を伝えるよう工夫していきたい。

氏名 勝本 泰弘

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
基礎演習	生1	前期	公務員試験、SPI 対策を意識した数的処理・推論の内容を取り入れた。 個々の生徒の演習プリントを毎回添削指導しながら授業を進めた。	公務員試験、SPI 対策が中心となったため、問題演習と解説の部分が多く、学生の興味関心という部分では成果が上げられなかったため、日常と数学のかかわりや有用性を示すトピックスも取り入れながら改善を図っていきたい。
情報処理演習	食2	前期	毎回の学習概要をプリントで提示しながら、授業後の自学復習がしやすいように基本的に教科書にそって、授業を進めた。また、毎回の学習成果を電子データで提出させ、理解度を確認しながら授業を進めた。栄養士を目指す学生にとって有用な統計処理の基礎についても内容に取り入れた。	高校時代に授業である程度学習している学生とそうでない学生が混在している中、その能力差が大きいので、各自で取り組む場面を活用し、経験の浅い学生をサポートできる時間を多く作り出しながら授業を進めていきたい。特に、栄養指導等に活用できる Excel の学習により多く時間を取って指導していきたい。
生活文化論	生2	前期	オムニバス形式の授業で、私が担当したのは 100 分×2 コマでした。全世界が現在取り組んでいる SDGs の概要、その解決に向けた取り組みの中での数学との関連について、ビデオ等も活用しながら学生の興味を引けるよう工夫した。	後期のゼミ紹介を兼ねているので、今年度は日常生活の中に潜み生かされている数学の有用性や面白さを伝えられるような内容に改善を図っていきたい。
情報文化論	生2	後期	情報技術の発展の歴史をその文化的背景を示しながら授業を進めた。また、現在の状況や今後の発展予測や留意点について、学生が興味を持てるような具体的題材を示しながら授業を進めた。	毎回の授業のポイントや感想を文書で提出させながら理解度をチェックし授業を進めてきたが、各学生の意見を授業の中で活用する場面が少なかったため、今後は、その部分を有効に活用しながら学生がより興味関心を持てる内容に改善を図っていきたい。
情報処理演習	生1	後期	毎回の学習概要をプリントで提示しながら、授業後の自学	高校時代に授業である程度学習している学生とそうでない学生が

			復習がしやすいように基本的に教科書にそって、授業を進めた。また、毎回の学習成果を電子データで提出させ、理解度を確認しながら授業を進めた。	混在している中、その能力差が大きいので、各自で取り組む場面を活用し、経験の浅い学生をサポートできる時間を多く作り出しながら授業を進めていきたい。特に、Excel の指導についてより内容を精査し、関数の使い方に慣れるよう指導していきたい。
情報処理演習	保2	後期	毎回の学習概要をプリントで提示しながら、授業後の自学復習がしやすいように基本的に教科書にそって、授業を進めた。また、毎回の学習成果を電子データで提出させ、理解度を確認しながら授業を進めた。	高校時代に授業である程度学習している学生とそうでない学生が混在している中、その能力差が大きいので、各自で取り組む場面を活用し、経験の浅い学生をサポートできる時間を多く作り出しながら授業を進めていきたい。とくに、Excel の指導内容の精選に努めたい。

氏名 中西 淳平

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
情報処理論	生1	前期	コンピュータの構成を紹介する際に、実物を準備して、回覧して、見て、触ってもらった。授業の終わりに、穴埋めプリントを配付し、授業内容の復習を行った。	授業評価アンケートでは、すべての項目で 4.1 以上の評価を得た。特に「授業の計画について」の項目が比較的高い評価を得た一方、「授業の内容について」の項目は比較的低い評価であった。授業内容の特性上、とっつきにくい部分があるので、内容の評価が低くなってしまふ。できる限り分かりやすく解説することで対応していきたい。
コンピュータ科学演習	生2	前期	Excel 操作の習熟度が低い学生には、気を配って丁寧に説明をした一方、Excel 操作の習熟度が高い学生には追加課題を与えることによって、学生の習熟度に合わせて授業を行った。	授業評価アンケートでは、すべての項目で 4.1 以上の評価を得た。特に「授業の計画について」の項目が比較的高い評価を得た。また、「授業の内容について」においても「この授業は自分のためになる」の項目は比較的高い評価を得た。その理由として、授業内容が学生の興味と一致しているため、が考えられる。次年度も学生の興味を引く課題を用意して授業を進めたい。
マルチメディア演習	生2	前期	今年度から担当した授業である。テキストは一つ一つの項目について説明が書かれているだけなので、それら同士の繋がりについて丁寧に説明した。	授業評価アンケートでは、各項目について 3.8~4.3 の評価を得た。最も高い評価を得たのは「急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった」の項目で、最も低い評価を得たのは「この授業は興味や関心が持てた」の項目であった。今年度から担当した授業なので、手探り状態のところから始めた結果である。次年度は学生の興

				味・関心を引く授業内容、課題を準備していきたい。
情報科学	生1	後期	授業の終わりに、穴埋めプリントを配付し、授業内容の復習を行った。	授業評価アンケートでは、各項目について3.7～4.7の評価を得た。最も高い評価を得たのは「急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった」の項目で、最も低い評価を得たのは「この授業は興味や関心が持てた」の項目であった。授業内容の特性上、とっつきにくい部分があるので、内容の評価が低くなってしまふ。できる限り分かりやすく解説することで対応していきたい。
コンピュータネットワーク論	生2	前期	授業の終わりに、穴埋めプリントを配付し、授業内容の復習を行った。	授業評価アンケートでは、ほぼすべての項目が3の評価を得た。受講者がかなり少ないことも影響していると考えられる。授業内容の特性上、とっつきにくい部分があるので、内容の評価が低くなってしまふ。できる限り分かりやすく解説することで対応していきたい。
プログラミング	生2	前期	Scratch を用いた授業時には、他のプログラミング言語を使用する際にも共通して理解しておくべきことを解説しながら授業を進めた。	授業評価アンケートでは、各項目について3.6～4.0の評価を得た。特に「教員の教え方について」の項目が比較的高い評価を得た一方、「授業の内容について」の項目は比較的低い評価であった。自由記述の項目には「難しかったけど楽しかった」という回答があり、まさにこの通りだと思われる。次年度は難しく感じられるところをとっつきやすく工夫をしていきたい。
Web プログラミング	生2	後期	完成例を提示し、HTML を入力、完成させてから、HTML の各要素についての説明を行った。その際、一部を変更することによってどう変化するか、について実演・提示した。	授業評価アンケートでは、各項目について3.8～4.2の評価を得た。特に「授業の計画について」の項目が比較的高い評価を得た一方、「授業の内容について」の項目は比較的低い評価であった。「教員の教え方について」の項目の評価は低くなかったので、次年度は授業内容を学生の興味を引く内容に切り替えて進めていきたい。

氏名 山本 桂子

<sup>1)</sup> 担当科目 名称	<sup>2)</sup> 担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
インターンシップ I	生1	前期	遠隔授業が3回入ったため、学生が家でも取り組みやすいワークシートを事前に配付した。インターンシップの WEB エントリーの方法を、実際のエントリー画面を使用し説明し	パワーポイントや動画資料はわかりやすいという評価だったが、興味のある業界を考えるワークでは難しさを感じる学生がいた。夏季インターンシップのエントリーに間に合わせるために、早い段階でエ

			た。	ントリー先を決めなければならず、工夫が必要。
医療事務概論	生1	前期	外部講師との連携を図り、学生からの質問に丁寧に対応した。	説明は丁寧だが、テキストの該当箇所を前で示すときには、小さくて見づらいことがあったとのコメントがあったので、改善したい。
医療事務演習	生1	前期	外部講師との連携を図り、学生からの質問に丁寧に対応した。	検定試験に向けて一定程度のスピードは必要であるが、スピードが速いと感じる学生もいたようだ。難しいと感じる学生には個別の対応が必要。
キャリアデザイン	保2	前期	一般的なキャリアの内容を伝えるだけではなく、保育職の専門性に関する内容の時には保育科の先生に授業を担当していただき、実際の就職先をイメージしてもらいやすくなった。	パソコンやマイクの音声安定せず聞き取りにくいとの声があった。セシリアという広い会場でもクリアな音声になるよう、設備の先生とも相談したい。
プレゼンテーション技法	生2	前期	ワークをやりっぱなしにせず、都度解説することを心掛けた。また、学生のワークシートより、いくつかピックアップして良い事例として紹介し、モチベーションアップを図った。	グループワークでの関わりやプレゼンテーションの実践が良かったという声があった。今年度はコロナ感染防止の配慮をしながらの実施であったが、次年度は学生がお互いに話す機会をさらに増やしたい。
キャリアデザイン	生1	後期	毎回レジュメを配付し、その日やることと目標を明確にした。履歴書の書き方や面接対策の回では特に実践的な内容にし、就職活動にすぐに役立つ工夫をした。	資料がわかりやすく、実践的で役に立つ授業であるとのコメントがあった。来年度はキャリアセンターとの連携を取ることで、学生のキャリアセンター早期活用につなげたい。
地域人材育成論	生1	後期	外部からゲストスピーカーを招く回を5回予定していたが、内1回はZoomを活用し、学外からご講話いただいた。学生の自主性を高めてもらうため、ゲストが来られる回の進行を学生に担当してもらった。	ゲストスピーカーが多く、社会とのつながりを感じることができたことが好評であった。半面、ゲストが多い分調整が必要で、シラバス通りの進行通りにはいかないこともあり、学生にはその点の丁寧な説明が必要である。
調剤事務概論	生1	後期	外部講師との連携を図り、学生からの質問に丁寧に対応した。	説明が丁寧でわかりやすいとのコメントがあった。授業内で解く問題の量について、もう少し多くても良かったのではという声もあり、検討したい。
医療接遇概論	生1	後期	外部講師との連携を図り、学生からの質問に丁寧に対応した。	説明と、課題の解説が丁寧で理解しやすかったとの評価であった。車いすを使用した実技もあり、楽しく参加できたようである。
人間関係論	生2	後期	人間関係の理論だけでなく、実社会を意識した事例解説やワークを取り入れ、学生の理解を促した。	最終課題のプレゼンテーションにやりがいを感じた学生が多かった。周りの学生のことを知るきっかけになったとのコメントもあり、来年度も続けたい。

氏名 東口 依未

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
家政学概論	生1	前期	授業のテキスト代わりとして、パワーポイントやロイノートを用いた。より具体例や学びを深めるために、YouTube の映像を視聴させた。	視聴覚教材の使用を使用したことで理解度の点である程度評価が良かった。しかし、プリントにおいて書き込みスペースが少なく困ったとの意見があったため改善の必要がある。
ファッション・ブライダルコーディネートI	生1	前期	演習科目であり、実技中心の授業である。授業は2名の非常勤講師と外部見学といった内容であり、今年度はICTの活用は見受けられなかった。	雑誌を用いてのスケッチブックの作成や浴衣の着装、施設見学などを実施しているため、ICTの活用はなかった。実技を取り入れていることで学生の満足度や理解度は概ね評価が高かった。
フードコーディネート	生2	通年	担当授業において、テーブルコーディネートのイメージを想起させるためにパワーポイントやロイノートで画像や写真を提示した。	スライドなどを用いたことで、概ね授業への興味や関心を持つことができていたように感じる。また、学生の理解にも少なからず貢献できた。しかし、履修者全員がそのようにアンケートに答えているわけではないため、より興味や関心、理解のために活用に勤めていきたい。

生活文化学科  
食物栄養専攻

氏名 西出 充徳

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
紀の国の食文化	全2	前期	ICT活用としては、パワーポイントを使用。オムニバスであるため、他の教員とスライドの枚数や図、配布資料などを分担し、配布資料や、スライドが多くならないように工夫した。	授業の評価では、スライドが良くまとめられているとの評価もあるが、スライドの進め方が早いとの評価もあった。全体的に書き取りの速度が遅いため、毎回学生にあった工夫が必要と思われた。
病理学概論	食1	後期	ICT活用としては、パワーポイントを使用。4人のオムニバスで授業を実施。最新の医学についての情報と病気と予防について学生に伝えるように多くの資料を使って授業した。	授業の評価では、スライドが早かったことや資料を毎回配布してもらったの感想があった。資料については配布する必要がない場合もあり、今後はそのことも理解できる様に説明していきたい。
食品学各論実験	食2	後期	実験が1/2、実習が1/2で構成されており、実習ではICT活用としてパワーポイントを使用。実験や実習は時間がかかるが、実習説明をICT活用に	実験と実習内容を予習などをして理解できていなければ実験・実習は時間内に終わることが難しい。ICTの活用を行いたいが、化学系の実験室では、天井など

			より時間短縮ができた。	にプロジェクターの取り付けや板書をホワイトボードにするなどの工夫も今後は必要と思われた。
食品学Ⅱ (各論・加工学を含む)	食1	後期	ICT活用としては、パワーポイントを使用。毎年、授業内容は概ね同じであるが、学生の理解度に合わせてパワーポイントのスライドを修正し、授業を行っている。	結果、授業は分かりやすいとの評価を受けた。
食品学Ⅱ /生	生1	後期	ICT活用としては、パワーポイントを使用。食物栄養専攻での授業内容とは一部変更した内容にしている。食の文化に関わることを重視した内容であるため、テキストに無いようなこともあり、パワーポイントのスライドを修正し、授業を行っている。	ICT活用で授業展開がスピーディーに行うことができ、復習なども行うことができ、学生からの良い評価を受けた。
食品衛生学	食1	前期	ICT活用としては、パワーポイントを使用。毎年、授業内容は概ね同じであるが、学生の理解度に合わせてパワーポイントのスライドを修正し、授業を行っている。	ICT活用で授業展開がスピーディーに行うことができ、復習なども行うことができ、結果、授業は分かりやすいとの評価を受けた。
製菓理論	食1	前期	ICT活用としては、パワーポイントを使用。特にテキストはなく、手作りの資料を活用している。	ICT活用で授業展開がスピーディーに行うことができた。製菓理論の履修者数と製菓実習の履修者が同数になるように履修説明に注意が必要と思われた。
製菓実習	食1	前期	ICT活用としては、パワーポイントを使用。特にテキストはなく、手作りの資料を活用している。	ICT活用で授業展開がスピーディーに行うことができた。製菓理論の履修者数と製菓実習の履修者が同数になるように履修説明に注意が必要と思われた。
キャリアデザイン	食2	後期	複数の教員によるオムニバスであるが、担当箇所については、ICT活用としては、パワーポイントを使用。	栄養士実力認定試験への取組については、短時間に複数問を暗記させるのに効率的であった。ただし、この授業への取組を理解していないものもいるため、教員全体での認識が必要である。

氏名 森岡 美帆

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
栄養教育 論Ⅰ	食物 1年	前期	グーグルクラスルームによる確認テストを実施した。 資料のPDF、関連WebページのURLをグーグルクラスルームにアップした。	授業評価では、各項目について4.2から4.8で平均4.6の評価を得た。【授業の内容について】で「4. この授業は興味や関心が持てた。」の評価が他の項目に比べて低いことが課題である。「5. この授業は自分のためになる内容だった。」という項目の評価は高いので、導入部分で興味、関

				心を持ってもらえるように次年度の授業内容を検討していきたい。
栄養教育論Ⅱ	食物1年	後期	グーグルクラスルームによる確認テストを実施した。 資料の PDF、関連 Web ページの URL をグーグルクラスルームにアップした。	授業評価では、各項目について4.0 から 4.5 で平均 4.2 の評価を得た。【教員の教え方について】で「7. 教員の言葉は、聞き取りやすかった。」の評価が他の項目に比べて低いことが課題である。「聞き取りやすかった。」という意見が 72%であるが、「もう少しスライド時間長くしてくれるとありがたいです。」という意見がみられたので、スライドの表示と説明のタイミング等改善を検討していきたい。
栄養教育論実習Ⅰ	食物1年	後期	実習日誌のフィードバックを実施した。	授業評価では、各項目について4.0 から 4.6 で平均 4.3 の評価を得た。【教員の教え方について】で「8. 学生の理解に合わせて授業が進められていた。」の評価が他の項目に比べて低いことが課題である。「分からないことがわかるに変わる喜びを感じた」という意見がみられたが、学生の理解に合わせて授業が進められていたと思わない学生の割合が 10%あったので、計算等が苦手な学生の対応を検討していきたい。
栄養教育論実習Ⅱ	食物2年	前期	食生活指針に関する栄養教育について、3分間の動画とワードでのリーフレットを各自が作成することを実施した。	授業評価では、各項目について4.0 から 4.6 で平均 4.4 の評価を得た。【授業の内容について】で「4. この授業は興味や関心が持てた。」の評価が他の項目に比べて低いことが課題である。良かった点として、「授業回数を重ねるたびにやってみようという気持ちにさせてくれるような授業だったと思う。」という意見がみられたので、導入部分で興味、関心を持ってもらえるように次年度の授業内容を検討していきたい。
公衆栄養学	食物2年	前期	グーグルクラスルームによる確認テストを実施した。 資料の PDF、関連 Web ページの URL をグーグルクラスルームにアップした。	授業評価では、各項目について3.6 から 4.8 で平均 4.2 の評価を得た。【授業の内容について】で「4. この授業は興味や関心が持てた。」の評価が他の項目に比べて低いことが課題である。法令等が難しく感じられるようであった。「5. この授業は自分のためになる内容だった。」という項目の評価は高いので、導入部分で興味、関心を持ってもらえるように次年度の授業内容を検討していきたい。
健康管理	食物	後期	グーグルクラスルームによる確	授業評価では、各項目について

概論	2年生 2年		認テストを実施した。 資料の PDF、関連 Web ページの URL をグーグルクラスルームにアップした。 フォームを用いて授業の振り返りを実施した。	4.1 から 4.9 で平均 4.4 の評価を得た。【授業の内容について】で「4. この授業は興味や関心が持てた。」の評価が他の項目に比べて低いことが課題である。「覚える事が多いけど、ためになる授業だから苦にはならなかった。」という意見がみられたので、導入部分で興味、関心を持ってもらえるように次年度の授業内容を検討していきたい。
臨床栄養学実習 I (計画)	食物 2年	前期	常食・糖尿病食・腎臓病食についてモデル献立を提示した。	授業評価では、各項目について 4.1 から 4.7 で平均 4.4 の評価を得た。【授業の内容について】で「4. この授業は興味や関心が持てた。」の評価が他の項目に比べて低いことが課題である。良かった点として、「丁寧に教えてくれたので分かりやすかった。」「少しずつ、分からないを分かるに変えられたのかと思う。」という意見がみられた。(次年度は担当しない)
臨床栄養学実習 II (実習)	食物 2年	後期	実習について振り返りを実施した。 各自 5 分間の臨床栄養教育のプレゼンテーションを実施した。	授業評価では、各項目について 4.1 から 4.6 で平均 4.4 の評価を得た。【授業の内容について】で「4. この授業は興味や関心が持てた。」の評価が他の項目に比べて低いことが課題である。「最後のパワーポイントを用いての発表は自分にとってとても良い経験になった」という意見がみられた。(次年度は担当しない)

氏名 芝田 史仁

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
解剖生理学	食1	前期	毎回の授業の内容を精査し、ポイントを絞った講義を心掛けた。学生が主体的に学びを深められるよう、前半は講義、後半は講義のポイントを穴埋め式のプリントにまとめる演習形式の授業を行った。学生が予習できるよう、当日の資料を授業の数日前までに用意し、学生が自由に持って行けるようにした。	授業評価では【授業計画】に関する評価の平均が 4.8、【授業の内容】が 4.5、【教員の教え方】が 4.6、【授業の成果】が 4.6 という結果になった。特に、『教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。』の質問への評価が 4.7 と高く、個別のコメントでもまとめプリントを評価する意見が多く寄せられ、授業改善の試みに一定の効果があつたことが窺える。一方、覚えることが多すぎるとの意見もあり、『学生の理解に合わせて授業が進められていた。』への評価が 4.4 と他に比べて低く、学生の理解度に応じた

				配慮の必要性を感じる。今後は、内容の更なる精査と絞り込みを図るとともに、適宜休憩を挟むなど、学生の状況に合わせた授業展開を心掛けたい。
保育内容 演習（自然）	保2	前期	学習した内容を体感的に理解できるよう、講義の後に、体験的な学習を多く取り入れた。また、キャンパスの自然探索マップを作成する課題では、学内を散策して学生が発見した自然物の写真を Google Classroom に投稿させることで、学びの共有を図った。	授業評価では【授業計画】に関する評価の平均が 4.5、【授業の内容】が 4.4、【教員の教え方】が 4.4、【授業の成果】が 4.5 という結果になった。特に、授業の成果に関する評価が比較的高い。学生のコメントでも、体験型の授業を肯定的に捉えた意見が多くあり、授業改善の試みが良い効果をもたらしたと言える。一方、『学生の理解に合わせて授業が進められていた。』の質問への評価が 4.3 と他に比べて比較的低い。講義において、内容を詰め込見過ぎる傾向があり、授業の進め方が速すぎたのかも反省する。来年度は、講義の内容を精査してポイントを絞り、学生の理解度に合わせた授業展開を試みたい。
紀の国の自然	全1	後期	パワーポイントの文字を大きくして、資料を見やすくした。Google フォームを使ったアンケートや課題を授業中に実施し、回答をその場で共有するなど、リアルタイムのフィードバックを心がけた。	授業評価では【授業計画】に関する評価の平均が 4.6、【授業の内容】が 4.2、【教員の教え方】が 4.3、【授業の成果】が 4.4 という結果になった。【授業の内容】に関する評価が他の項目に比べて低いことが課題である。次年度は、より学生が興味を持てるよう、身近な自然の内容をとり入れたい。また、個別のコメントで資料の文字を大きくして欲しいとの要望があり、対応していきたい。
子どもの自然遊び	保2	後期	学生が保育にネイチャーゲームを取り入れる意義を体感的に学べるよう、講義と体験型学習を交互に行うと共に、講義の導入にもゲームを取り入れるなどして、可能な限り多くのネイチャーゲームを学生が体験できるように心掛けた。	授業評価では【授業計画】に関する評価の平均が 4.6、【授業の内容】が 4.5、【教員の教え方】が 4.5、【授業の成果】が 4.4 という結果になった。学生からのコメントからはネイチャーゲームを多く体験できたことへの評価が高いことが分かった。一方、【教員の教え方】の項目では、クラス間ではどの項目についても一方のクラスの方が他方に比べ 0.1～0.3 ポイントほど低いという結果になった。同日に同じ内容の授業を実施したのだが、学生の状況に合わせた対応が出来ていなかったのかもしれない、改善していきたい。

氏名 井上 和彦

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
生化学Ⅰ (基礎)	食1	前期	テキストの各章ごとに、ミニツツペーパーを実施した。その章に関連した栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験問題の過去問を練習問題として取り組んでもらい、解説した。また、理解できたこと、理解できなかったことを記入してもらい、自身の参考にするとともに、理解できなかったと指摘された内容は、次回の授業で再度説明した。	本年度で退職するため、次年度は授業を実施しない。
栄養学概論	食1	前期	テキストの各章ごとに、ミニツツペーパーを実施した。その章に関連した栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験問題の過去問を練習問題として取り組んでもらい、解説した。また、理解できたこと、理解できなかったことを記入してもらい、自身の参考にするとともに、理解できなかったと指摘された内容は、次回の授業で再度説明した。	本年度で退職するため、次年度は授業を実施しない。
生化学Ⅱ (応用)	食1	後期	テキストの各章ごとに、ミニツツペーパーを実施した。その章に関連した栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験問題の過去問を練習問題として取り組んでもらい、解説した。また、理解できたこと、理解できなかったことを記入してもらい、自身の参考にするとともに、理解できなかったと指摘された内容は、次回の授業で再度説明した。	本年度で退職するため、次年度は担当しない。
運動生理学	食1	後期	ミニツツペーパーを実施した。授業で扱った内容に関連した管理栄養士国家試験問題の過去問を練習問題として取り組んでもらい、解説した。また、理解できたこと、理解できなかったことを記入してもらい、自身の参考にするとともに、理解できなかったと指摘された内容は、次回の授業で再度説明した。	本年度で退職するため、次年度は授業を実施しない。
医薬と検査	食2	後期	ミニツツペーパーを実施した。授業で扱った内容に関連した管理栄養士国家試験問題の過去問を練習問題として取り組んでもらい、解説した。また、理解できたこと、理解できなかったことを記入してもらい、自身の参考にするとともに、理解できなかったと指摘された内容は、次回の授業で	本年度で退職するため、次年度は授業を実施しない。

			再度説明した。	
生理・生化学実験	食2	前期	生理学や生化学の知識に基づいた定番の内容ではなく、自分の体、食品、栄養素を使った実験を計画し、学生の生命科学に対する苦手意識を払拭し、実験に取り組みやすいよう心がけた。	本年度で退職するため、次年度は授業を実施しない。

氏名 成田 仁美

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
給食管理	食1	前期	入学直後に、専門科目を理解するのは学生にとって困難であるため、まずは興味をもたせるため、スライドの文字や図・写真などの資料を精査し、学生が理解しやすく、板書しやすいように工夫した。毎時、ふりかえり問題に取り組むことで、授業の理解度を各自が客観的に把握できるようにした。	授業に関心をもてた学生は 4.4 ポイント、自分のためになる授業であったと答えた学生は 4.6 ポイント、意欲的に取り組めたと答えた学生は 4.5 ポイント、新しい知識、技術、能力が身についたと答えた学生は 4.6 ポイントだった。 後ろの席から、板書の文字が見えにくいとの意見があったので、改善したい。太字のホワイトボードのペンを各教室に配置してもらえたらよいと思う。
給食管理 実習Ⅱ	食2	前期	給食管理実習Ⅰを理解していることが前提の実習科目であるので、学生にとって難易度が高い。そのため、それまでのノートや課題の資料を振り返りながら授業を進行した。	授業の内容に関する学生評価は 3.7 ポイントから 3.9 ポイントと他科目に比べると低かった。1年次に配布した復習に必要な課題や資料を捨ててしまっていた学生がいた。次年度は、給食管理実習Ⅰの実習ノートを全員が授業で活用できるよう、1年次から細やかにノート作成の指導をする。(53期生に改善案を摘要した)
調理学	食1	前期	調理の基本について理解できるよう、スライド、配付資料、練習問題を工夫した。	授業内容について 4.6～4.7 ポイント、教員の教え方について 4.5～4.7 ポイント、授業成果について 4.6～4.7 ポイントだった。後ろの席から文字が見えづらいとの意見があるので、改善したい。太字のホワイトボード用のペンがあればよいと思う。
調理学実 習Ⅰ	食1	前期	普段料理をしたことのない学生から主婦の学生まで、知識・技術に差がある。どの学生にとっても正しく基礎から学べるように懇切丁寧に調理操作について実演解説し、実習中においても常に巡回指導している。実習後は、実践と理論を結びつけられるようにするため、調理の理論について、教科書や参考図書、インターネットで	どの学生も意欲的に実習に取り組んでいた。授業の内容は 4.7 ポイント、教員の教え方は 4.6～4.7 ポイントだった。 調理の理論について理解するために重要となる課題ノートを期限までに仕上げられない学生が複数名いた。課題の量と質、課題の提出頻度や期限の設定の仕方について改善したい。

			調べ学習する課題を取り入れている。	
子どもの健康と発育	食1	後期	栄養教諭としての経験を踏まえて、保育所・小学校における食育の重要性、推進の仕方、栄養士・管理栄養士の役割などについて理解を深められるように経験談、具体例を交えながら授業を進めた。	保育所・小学校の栄養士をめざす学生が受講する選択授業のため、意欲的に受講している様子だった。授業内容は4.6～5ポイント、教員の教え方は4.3～4.6ポイントだった。
調理学実習Ⅱ	食1	後期	前期に比べると難易度の高い調理技術を扱う授業であるので、学生にとって難易度が上がる。前期に説明している基本的な技術解説などは省略し、調理する時間を確保できるよう留意した。	授業内容について4.2ポイント～4.5ポイント、教員の教え方について4.1ポイント～4.5ポイントであった。調理技術向上のために、家で予習・復習をしっかりとすよう声かけをしたい。
給食管理実習Ⅰ	食1	後期	給食管理実習Ⅱへとつながる重要な実習科目である。毎時間、実習課題や資料を配布し、添削して返却し、ノート整理を習慣づけられるようにした。	授業の内容について4.2～4.3ポイント、教員の教え方について4.2～4.4ポイント、授業の成果について4.3ポイントだった。前期の給食管理の科目を十分理解できていることが前提の授業内容であるため、学習内容が定着できているように、夏休みに課題を与えるなどして対策したい。
フードコーディネート	食2	通年	食事環境を整えるための基本的な決まり事を踏まえて、テーマに沿った計画がたてられるように知識・技術を織り交ぜた演習内容とした。	授業内容について3.7～3.9ポイント、教員の教え方について3.7～4.2ポイント、授業成果3.9～4ポイントだった。

氏名 野志 昌弘

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
食品学Ⅰ	食1	前期	スライドを用いた授業展開を中心に据えた。昨年度は、同様のスタイルで板書の時間を要求されたので、スライドを資料として配布した。これにより授業のテンポを損なわないようにした。 また、試験対策に繋がる課題問題を Google Classroom で出題することで復習の手助けとなるようにした。	授業評価より、配布資料は好評のようであった。しかし、授業毎にスライド資料を配布することになり、その枚数はかなりの量となった。重要なスライドの抜粋などにより物量を減らす工夫が感じられた。 ネット上での課題提示は、各自が自身の到達度に応じた分量を取り組めるように公の到達点を設定しなかったため、銘々が思うように学習に活用していたようだった。これについては、特に意見を募集しなかったため、個別に調査する必要がある。
医療事務総論	食2	前期	授業は、その分野における人材養成の専門家に委託して行った。	担当者の指導については、概ね高評価であったと捉えられた。ただ、非常勤講師を中心に授業を展開したため、各受講

				生の個性について担当者との情報共有を強化することで、より演習の内容を深めることができたのではないかと推察する。
食品学総論実験	食1	後期	レポート評価において、自身の考察を述べることのウエイトを増した。また、授業環境を保つためにも教員と受講生間での授業に関するルールを重要視するようにした。 また、Google Classroom を利用したフリータイムでの質問受付も行った。	授業の内容やレポート作成に関する指導についての満足度は、授業評価を見る限りでは、概ねの項目で他授業との平均値を上回っていたようである。ただし、授業の終了時間については、数分の超過であっても非常に大きな不満を持つ受講生が定数いることが見て取れたため、一層の注意が必要であることが明らかとなった。 フリータイムでの質問は利用が特になかったが、これはレポートノートに記載された生データや図表式を見ての対応を要求する受講生が多かったためであった。
生活科学	食1	後期	授業内容の定着を目的に、小テストプリントによる繰り返しおよび振り返り学習を重視した授業展開を行い、ナンバリングした資料や繰り返し学習に役立つ例題プリントを複数種類毎回用意するようにした。	授業評価より、多数のプリントは振り返り学習に有効であったとの意見があった。また、繰り返しにより授業の目標および到達点が明確に伝わったようである。 ただ、授業中での繰り返し学習のみでは定着が見られない受講生がいたため、宿題の設定など時間外学習が必要であると感じさせられた。わかりやすいパワーポイントなどの工夫のみに留まらず、ICT を利用して隔日で課題を提出させるなどの対応が有効に働くと考えた。
食品学各論実験	食2	後期	担当者が増えたこともあり、受講生各個へのリソースを増やせた。また、必要事項の理解などについて、自分で考えさせることを重要視した。 Google Classroom を利用したHR クラスでの質問受け付け等も行った。	担当者が増えることによる事前打ち合わせの重要性を強く感じさせられる授業評価であった。担当箇所 の 分担や発言内容の細かな不一致などが不満に繋がったと考える。 また、自発的な考えを促すことは、「答えを教えてくれない」という結果に直結するようである。 「授業の空気が悪かった」というコメントがあったが、穏やかな授業環境づくりを心掛けることはもちろん、注意や指導がなぜ必要であるかの理解を促すことが上記事項も含めての授業改善に繋がるのではないかと考える。
食品学Ⅲ	食2	後期	上記「食品学Ⅰ」と同様の工夫を行った。	授業評価は高評価であったが、その母数は極端に少ないため、参考にはできない。受講

				人数が増えた際には上記「食品学 I」と同様の対策を講じる予定である。
キャリアデザイン	食2	後期	担当時間が割振りで決められているため、短時間での習熟を目標に要点を繰り返し学習する手法をとった。 スライドを白板に投影し、受講者の回答に応じて必要事項を書きこむ形式で、回答に対する解説をクラス間で共有するスタイルを実施した。	複数担当のため、授業評価のコメントが誰の事を指しているのか不明瞭であったが、プリントなど手元に残る資料の存在が受講生の満足に繋がるのが感じ取れた。これは、自身が担当する他の科目においても共通する事であった。必要事項を自分でまとめる力を養うことも念頭にいれつつ、資料の配布を重要視していく予定である。

氏名 堀江 大輔

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
キャリアデザイン *オムニバス 第6回 「栄養士としての資質向上のための授業(栄養と健康)」担当	食2	後期	解説に因らず考える時間をまとめ、学生が自身の理解状況と向き合えよう、問題への回答方法の変更を試みた。具体的には、以前は1問ずつ回答し解説していたものを、3-6問まとめる方法とした。学生の状況を見ると、この方法により授業のメリハリができたように感じられた。	詳細な説明にかける時間を削った部分もあったので、来年度は、学生の理解状況を考慮して時間・問題数の配分なども検討していきたい。また、学生が自身の理解状況と向き合えたか確認する方法を準備していなかったため、回答用紙に自身の理解不足な点を記述する欄を設けるなどで対応したい。

## 保育科

氏名 小笠原 眞弓

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
保育のこころ	保1	前期	保育学生として初めて保育現場に出るための基本的な心構えやマナー、子どもと関わるための簡単な遊びや手作り名札の制作など、実践を取り入れた授業を行った。	授業評価は、各項目において4.5~4.7の高い評価であった。次年度は、学生からのコメントで要望が多かった手遊びや折り紙の折り方など準備をする時間を確保していきたい。
基礎ゼミ	保1	前期	教科目「保育のこころ」と関連して子どもや保育の現場を理解するための授業である。3回の現場体験のうち2回終了時にグループディスカッション・発表を行い学びの共有を図った。そして3回終了時には個々で体験を振り返り課題を発見、まとめのレポートは現場体験受け入れ園に提出した。	授業評価は、各項目において4.5~4.6の高い評価であった。当教科目は「保育のこころ」の教科と同様にオムニバス形式の授業である。教員同士、夫々の役割を果たしながら更に協力し合い、授業の目標に相応しい内容を提供していきたい。

保育原理 I	保 1	前期	今年度は、「保育の歴史」より保育を導いた思想家について、プレゼン型のグループワークを試みた。各グループから提出された資料はレジュメにして配付、それを基に発表を行った。	授業評価は、各項目において、4.5~4.7 の高評価であった。しかし、クラス間で差があることが気になる。この差は学生自身の学習成果評価と期末試験結果にも顕著に表れた。クラスの個性とはいえ、それぞれのクラスへの対応を次年度の課題とする。そして、学生のコメントよりプレゼン型のグループワークは好評を得たので次年度も継続したい。また、本教科は原理の授業であるが、教員の体験談や事例を説明に加えることで面白くて分かりやすかった、楽しくて興味が湧いたとのコメントが多く得られた。基礎的な知識を伝えながらも授業の雰囲気作りの必要性を改めて感じ今後も努力したい。
教育実習ガイダンス	保 2	1 年～2 年前期	1 年春期休暇中から指導案立案の課題を出して 2 年次実習の準備を始める。進級後は 6 月の実習までに学内で模擬保育を体験してから実習に送り出している。	授業評価は、各項目において、4.4~4.7 であった。実習事前指導の一環である模擬保育は学生のコメントからも役に立ったことが分かり、今後も取り組んでいきたい。また例年行っている 1 年実習終了後の個人面談はコロナ禍（ハイブリッド型授業）のため実施できなかったが、実習指導において個別指導の重要性を痛感したため、次の学年より実施している。
乳児保育 I	保 1	後期	講義科目であるが、「乳児の遊びと保育者の関わり」の授業内容として、乳児のための手づくり玩具を考案、製作を試みた。	授業評価は、各項目において、4.5~4.6 であった。しかし、この教科も「保育原理 I」と同様に、クラス間で各項目 0.3~0.4 ポイントの差異がみられ、期末試験の結果に大差が生じた。クラス対応については今後の課題としたい。また、学生のコメントから手づくり玩具の製作と発表は好評であった。学生の主体的な取り組みとして次年度も授業の内容に取り入れたい。
保育・教職実践演習（幼稚園）	保 2	後期	今年度の新しい試みとして、模擬保育のグループ決めに学生に任せてみた。	授業評価は、各項目において、4.3~4.6 であった。グループ決めも問題なく、学生のコメントからも模擬保育については好評を得られた。次年度の課題として、授業時間数が 1 回 200 分から 100 分に半減するため、授業の内容と質を落とさぬよう教員間でよく検討したい。
在宅保育	保 2	後期	認定ベビーシッター取得のための教科目であり、ACSA(全国保育サービス協会)から使用テキスト、履修内容が指定されている。が、授業ではそれ	受講者が 3 名と僅少であったため評価の分析には値しないと捉える。この教科目は次年度が最後となるため、受講者数を考慮しながら

			に加えて、子ども・子育て・保育に関する最新情報の資料を提示し、ディスカッションや発表を行うなど対話的な学びの機会を多く持った。	ら今年度の内容を参考にさらに工夫を凝らしたい。
--	--	--	---	-------------------------

## 氏名 井澤正憲

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
図画工作	保1	通年	前期(平面)、後期(立体)を通して基礎的な技法の習得に努めた。	様々な表現の参考作品を用意する。制作時間を明確にする。
保育内容 演習(表現)	保1	後期	発達に応じた表現や環境についての理解。	プリントでの説明に終わらず、画像もプロジェクターなどを使い用意する。
子どもの表現	保1	前期	子どもの表現の理解と素材を通しての表現力について。	制作物を用いた遊びの時間を用意する。
保育内容 演習(造形)	保2	前期	「あそびの空間」というテーマで、環境作りについて造形に向く素材を用いて作り上げる。	さらなる造形素材の研究。
子どもの表現 遊び	保2	前期	演劇のための舞台美術や衣装などの制作と表現。	発表の形態を展開する。

## 氏名 今西 香寿

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
子どもの表現 遊び	保2	前期	子どもたちにどんなメッセージを伝えたいかということを中心に置き、題材、シナリオや音響、動きなど、グループに分かれて劇発表に取り組んだ。学生主体で取り組んでいたが、取り組んでいる様子を見ながら指導を行っていった。前年度と違い、対面で毎週取り組むことができたので、学生においてはよい学びにつながった。	授業評価の自由記述において、「時間が足りない」のコメントが書かれていた。題材、シナリオから考えていくとなると、どうしてもシナリオの作成に時間を取られてしまい、体の動かし方や声の出し方などの身体や声を使った表現まで練習をする時間が取れなかった。授業時間内で時間の段取りをしながらすことは必要なことではあるが、教員側で内容を決めて、その内容をどのように取り組めば子どもたちに伝わりやすいかという手法もある。今後、担当者で検討していきたい。
子どもの表現	保1	前期	今年度はすべての回数を対面で行うことができたため、前週の復習を入れながら、取り組むことができた。音楽表現・造形表現・身体表現のオムニバスで授業を行った。音楽表現においては、ゲスト講師を2コマ分招き、残りは造形表現・身体表現を同じ時間に6コマずつ行い、学生を半分に分けて行った。	授業評価の自由記述において、「すごく楽しかった」や「楽しく学べた」などのコメントが多く書かれていた。学びを楽しんでいると感じていることはとてもいいことであるが、今後、保育者としてどのように活かすかということを理解できるようにしていきたいと考える。また、「ダンスができて楽しかった」や「いろいろなものを作れて楽しかった」などのコメントも多く書かれていたが、それらの活

				動がどのように表現とつながっているのかということをより具体的に伝えていきたい。
幼児体育 I	保2	前期	昨年度はコロナ禍の中での授業のため、隔週しか授業を行うことができず、今年度は、14 回行うことができた。一昨年度までは、非常勤の先生が担当されていたため、幼児体育 I の授業は初めて 14 回行うことは今年度が初めてであった。	運動遊びの実践をしながら、指導法などを取り入れながら行った。授業評価の自由記述において、「楽しかった」や「いろいろな案を知ることができた」などのコメントがあった。学生にとっては遊びの引き出しは増えたかと思うが、もう少し遊びのねらいを抑え、活動から運動遊びから出現する多様な動きの種類など、学生と一緒に考えながら取り組んでいきたい。毎回、授業終了した翌日に振り返りとして授業内容をノートに書き、提出をさせている。このノートが今後就職をした際に参考資料になると考える。よりこのノートが充実したものになるよう、来年度は遊びのねらいや運動遊びから出現する動きの記載を含めていくようにしたい。
保健体育 実技	保1	通年	昨年度はコロナ禍の中での授業のため、隔週しか授業を行うことができず、今年度は、14 回行うことができた。演習を通し、自分自身の体もしっかり動かし、友達とコミュニケーションを図ったり、チームで活動をするなどの取り組みを行った。	授業評価の自由記述では、「仲間で頑張ることができた」や「友達と話すきっかけになった」など、友達とコミュニケーションをとることができたというコメントがあり、ねらいは達成できたと考える。また、授業内容をその日のうちにノートに記入して、翌日提出をするようにしていたため、「授業を振り返ることができた」とのコメントもあり、学生においては学びを深めることができたようである。実技は楽しく終わったではなく、授業で取り組んだ内容を振り返ることが大切である。今後も演習の授業においては、ノートを作成することを継続して取り組んでいきたい。
保健体育 講義	保1	通年	学生自身の健康について、自分自身の現在の体と心の状況を知りながらパワーポイントを用いて、講義を進めた。また、心の健康を保つためには人との関わり方の重要性についてグループディスカッションを行った。	授業評価の自由記述では、「健康について深く学ぶことができた」や「健康について考えさせられた」などのコメントが多く書かれていた。また、「全体を通し、分かりやすくなる内容である」などのコメントもあり、自分自身の健康に保つようにするには日頃からどのように取り組むことが必要かを理解してくれたようである。ぜひ健康を保つための日常生活を送ってほしいものである。学びから日々の生活にどのように取り組んでいくことができるようにするかが今後の課題である。

保育内容 演習「健康」	保1	後期	子どもの健康について、保育者が理解しておいてほしい内容について、パワーポイントを用いて、学生にもパワーポイントの内容をプリントアウトし、配布をして講義を行った。	授業評価の自由記述では、「プリントでまとめられていて分かりやすい」や「理解しやすくとても分かりやすかった」「興味を持てた」などのコメントが書かれていた。「難しい」というコメントもあったが、難しい中でも内容を理解しやすいということであったので、来年度も今年度と同様に、パワーポイントとプリントを配布し、講義に取り組んでいきたい。
幼児体育Ⅱ	保2	後期	幼児体育Ⅰでは、遊びの引き出しを増やすことを目的に行ったが、幼児体育Ⅱでは学生自身が遊びを考え、考えた遊びで模擬保育を行ったりなど、学生自身が取り組んで行う授業を行った。	授業評価では、すべての項目が平均より高く、4.8以上の結果であった。選択授業ということもあり、学生も学ぶ意欲のある学生が集まり、少人数であったという点から、この結果に繋がったと考えられる。今年度は受講学生が少なく、丁寧に授業を行うことができた。しかし、授業内容によっては少し人数が多い方がいい内容もあり、幼児体育Ⅱを選択してもらえるよう日々の授業を魅力的なものにしておかなければいけないと考える。

氏名 小滝 正孝

<sup>1)</sup> 担当科目 名称	<sup>2)</sup> 担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
基礎演習	保1	前期	情報処理演習室も利用し、Google クラウドルームを活用して課題を提示し、ドキュメントでの提出とした。各学生のドキュメントに個別にコメントしフィードバックを行った。また、YouTube等の動画を活用し、理解を深めることに役立てた。オンライン授業では、説明動画を作成し、視聴後、フォームで課題提出を行うこととし、自宅学修の支援に努めた。	授業評価では、各項目について4.4から4.7の評価を得た。次年度は、文書作成等において、より保育に関係する内容を取り入れ、専門科目につないでいく内容としたい。
国語表現	保2	後期	多目的コンピュータ室で授業を行い、Google クラウドルームを活用して授業中に課題を提示し、ドキュメントでの提出として、個別にコメントしフィードバックを行った。また、プリントアウトした資料をパソコン画面に提示し、わかりやすい説明に活用した。YouTube等の動画を活用し、理解を深めることに役立てた。	授業評価では、全ての項目について5.0の評価を得た。少人数での授業であったので、学生の理解度を図りながら進度を定めることができた。次年度は、より多くの学生が選択するよう、授業内容に工夫をこらしたい。
日本語演習	生1	通年	前期は、情報処理演習室も利用し、Google クラウドルームを	授業評価では、各項目について4.5から4.8の評価を得た。【授

			用して課題を提示し、ドキュメントでの提出とした。各学生のドキュメントに個別にコメントしフィードバックを行った。また、フォームを使ったアンケートを授業中に実施し、回答をその場で共有するなど、リアルタイムのフィードバックを心がけた。You Tube 等の動画を活用し、理解を深めることに役立てた。後期は、スライド資料を準備し、課題の説明に活用した。	業の内容について】に関する評価が他の項目に比べて低いことが課題である。次年度は、目的がより明確に学生に伝わるよう、各授業内容の目標を示していきたい。
--	--	--	--	--

氏名 森定美也子

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
保育の心理学Ⅰ	保1	前期	オンライン授業において、パワーポイントに音声を入れた形式で実施した。 動画を活用して、課題に関心を高める動機づけを行った。	授業評価では【授業の目標について】に関する評価が他の項目に比べて低いことが課題である。次年度は、より目標がはっきりわかるように工夫していきたい。また、個別のコメントで書く内容が多いとの要望があったので、内容をコンパクトに修正するように対応していきたい。
障害児保育	保2	前期	オンライン授業において、パワーポイントに音声を入れた形式で実施した。 正しいグラフの画像をオンライン上にアップして、正しいグラフの内容が個別に参照できるように工夫した。	授業評価では【授業のわかりやすさ】に関する評価が他の項目に比べて低いことが課題である。次年度は、よりわかりやすい内容になるように工夫していきたい。また、個別のコメントでフォームの課題が多いとの要望があった。フォームの内容を絞るように対応していきたい。
保育の心理学Ⅱ	保1	後期	DVD や動画を活用して、課題に関心を高める動機づけを行った。必要な知識をスモールステップで身につけられるように、小テストを行った。	授業評価では【授業の目標について】に関する評価が他の項目に比べて低いことが課題である。次年度は、より目標がはっきりわかるように工夫していきたい。また、個別のコメントで書く内容が多いとの要望があったので、内容をコンパクトに修正するように対応していきたい。
特別支援教育	保2	後期	障害児の指導計画表の書き方について、学生が書いた内容をその都度添削して返却し、書き方が身につくようなフィードバックを心がけた。必要な知識をスモールステップで身につけられるように、小テストを行った。	授業評価では【授業の目標について】に関する評価が他の項目に比べて低いことが課題である。次年度は、より目標がはっきりわかるように工夫していきたい。また、個別のコメントでアセスメントに用いる評価表の見方がわかりにくいとの指摘があった。評価表の見方についてさらにわかりやすく解説できるよう対応したい。

子ども家庭支援の心理学	保2	後期	DVD や動画を活用して、課題に関心を高める動機づけを行った。必要な知識をスモールステップで身に着けられるように、小テストを行った。	授業評価では【授業の目標について】に関する評価が他の項目に比べて低いことが課題である。次年度は、より目標がはっきりわかるように工夫していきたい。また、個別のコメントで書く内容が多いとの要望があったので、内容をコンパクトに修正するように対応していきたい。
心理学入門	食2	後期	DVD や動画を活用して、課題に関心を高める動機づけを行った。必要な知識をスモールステップで身に着けられるように、小テストを行った。	授業評価では【授業の目標について】に関する評価が他の項目に比べて低いことが課題である。次年度は、より目標がはっきりわかるように工夫していきたい。

氏名 桑原 徹也

<sup>1)</sup> 担当科目 名称	<sup>2)</sup> 担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
子ども家庭福祉	保1	前期	Google フォームを活用し、当日の授業を振り返る問題を実施することで内容理解に努めた。	授業評価では、各項目について4.54 から 4.74 の評価を得た。「学生の理解に合わせて授業が進められていた」の下位尺度が科内平均ポイントで1・2年とも最も低い評価となっている。当該科目においては 4.62(全体平均値 4.24)という評価であった。授業の振り返りが一定の効果を示したのではないかと考えられる。次年度は、今年度整備された ICT 機能をさらに活用することで個別の理解度を授業毎に把握し、対応していきたい。
社会福祉	保1	後期	実習や普段の生活など学生自身に身近な例をVTRも用いて紹介することで興味を持てるよう努めた	授業評価では、各項目について4.43 から 4.58 の評価を得た。「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは授業内容の理解に役立った」の下位尺度ポイントが最も高く4.58の評価を得た。子どもだけでなく大人も含めた家庭生活について、より興味を持てるよう VTR や現場でのエピソードを用いて対応していきたい。
社会的養護 I	保1	後期	Google フォームのアンケートを活用し、学生の理解度をクラスで共有した。また、フォームで受け取った回答について、模範的な回答を当該学生に発表してもらい、参加型の授業に努めた。	授業評価では、各項目について4.33 から 4.67 の評価を得た。「この授業は興味や関心が持てた」の下位尺度ポイントが最も低く、相対的に【授業の内容について】の項目への評価が低い傾向が見られた。時事ネタや現場でのエピソードを多用し、学生の興味・関心を得ることができるよう努めていきたい。
子ども家庭	保2	前期	実際に現場で起こるエピソード	授業評価では、各項目について

支援論			ドを提示し、グループワークとその発表により、多面的な問題解決の方法をクラスで共有した。	4.43 から 4.68 の評価を得た。 【授業の成果について】の項目の下位尺度がともに下位尺度平均4.45と最も低い評価となった。対して全体平均では当該項目は上位の評価を得ており、下位尺度平均 4.48 となっている。学生間のグループワークに対する教員のコメントが限定されていたことが反省される。次年度は学生からの意見をもとに教員からのフィードバックを強化していきたい。
社会的養護Ⅱ	保2	後期	実際、現場で活躍する専門家を招き、社会的養護の考えをさらに発展できるよう努めた。ZOOM を使うことで直接講話を頂くことが難しい講師を招くことが可能となった。	授業評価では、各項目について4.46 から 4.67 の評価を得た。授業レポートや評価アンケートコメントから、外部講師の招聘に対する評価が高かった。実際の現場をタイムリーに学ぶことや、多角的な視点を得られたことに一定の評価があったと考えられる。特に ZOOM 機能などは、現場と中継を繋ぐことで現場の空気感や支援環境を中継することも可能である。今後、更なる活用を目指したい。
保育実習指導Ⅰ	保2	前期	学生自身の実習で得た学びについて 5 分間のスピーチを行った。まとめる力、伝える力、自身の振り返りを狙った。	授業評価では、各項目について4.50 から 4.64 の評価を得た。下位尺度すべてに大きな偏りはなく、バランスの取れた評価となった。 発表の方法をスピーチに限らず、パワポやスライドなども活用できるよう発展編として別授業(実習指導Ⅲ)で取り入れていきたい。

氏名 金谷 有希子

<sup>1)</sup> 担当科目 名称	<sup>2)</sup> 担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
保育実習指導Ⅰ	保2	通年 (1年後期～2年前期)	保育実習Ⅰの評価表(外部評価)より、指摘点の多い内容をリストアップし、保育実習Ⅱに向け課題を意識づけできるようにした。 実習体験の発表(5分間スピーチ)を行い、自らの実習体験の整理と新たな課題の明確化、及びクラス内での共有を行った。	授業評価では、各項目 4.5 以上の評価を得た。項目ごとの評価ポイントにおいて大きな差異は特に見られなかった。学生のコメントより「実習で必要なことを知ることができた」との肯定的な意見を得ることができた。 実習参加の事前学習として、子どもを取り巻く環境のデータやグラフを授業内で用いているが、今後もそうしたものは最新の情報を学生に提示していきたい。また、こちら側が提示するのみでなく、授業の中で学生自身がス

				スマートフォン等でデータを検索する時間を設け、適切なデータ収集方法について伝えていければと考える。
保育実習指導Ⅱ	保2	通年	<p>授業教室(スクリーン)の大きさに合わせ、パワーポイントの字体や文字の大きさを変更した。</p> <p>保育実習Ⅰの評価表より、全体的に評価の低い項目(実習日誌の内容)を保育実習Ⅱで改善できるよう、日誌の書き方の復習を授業内容に盛り込んだ。その際、学生達が見慣れた書式となるよう本学で使用している実習日誌をスキャンし、パワーポイントに項目ごとに貼付け、書き方の例や注意点をまとめて視覚的に分かりやすくした。</p> <p>保育実習指導Ⅰの授業同様、実習体験の発表(5分間スピーチ)を行い、自らの実習体験の整理と課題の明確化、及びクラス内での共有を行った。</p>	<p>授業評価では、各項目 4.6 以上の評価を得た。項目ごとの評価ポイントにおいて大きな差異は特に見られなかった。</p> <p>学生のコメントより「スピーチは緊張したが皆の前に立つ自信に繋がった」、「発表準備にあたり実習の振り返りができた」、「クラスメイトの発表を聞き自分自身の学びとなった」など実習体験の発表を前向きに捉えている意見が多くみられた。5分間スピーチと聞くと苦手意識が先行する学生が多いと思われるが、今後も発表の意義を学生が認識できるよう努めていきたい。また、今年度同様、保育実習Ⅰの外部評価より学生全体に指導が必要と思われる内容については授業の中でフィードバックしていきたい。</p>
キャリアデザイン	保2	前期	<p>ロールプレイやディスカッションを多く取り入れ、実践を通し理解したり意見を伝え合ったりする機会をもった。その際机間巡視し、適宜助言を行った。</p>	<p>授業評価では、各項目について 4.0 から 4.4 の評価であった。その中でも、「学生の理解に合わせて授業が進められていた」の項目が他の項目に比べ低かった。</p> <p>学生のコメントでは「ビジネスマナーを知ることができた」、「自身のことをしっかり振り返って考えることができた」との肯定的な意見が得られた一方、「面接練習や履歴書の書き方の授業回数が少なかった」、「先輩保育士や卒業生の声を聞く機会があればさらに良い」との意見もあった。</p> <p>上記のコメントより、学生が就職活動に重点を置いた内容を求めていることが分かる。「学生の理解に合わせて授業が進められていた」の評価が低いことに繋がっているものと思われる。次年度は、学生が就職活動にスムーズに入っていけるよう授業内容の編成を考え直す必要がある。</p>
保育のこころ	保1	前期	<p>見学実習及び現場体験に参加するにあたり、保育学生としての基本的な心得を身につけられるよう、マナー講座・実習に出る際の身だしなみ・名札制作・手遊びや折り紙など実践を通しながら習得できる内容としている。</p> <p>入学後、初めて現場にでる機</p>	<p>授業評価では、各項目 4.4 以上の評価を得た。項目ごとの評価ポイントにおいて大きな差異は特に見られなかった。</p> <p>学生のコメントでは、「保育を行う上で必要な知識を学ぶことができた」、「子ども理解が深まった」、「説明が分かりやすかった」、「手遊びや折り紙は楽しみ</p>

			会であるため、実習先への書類提出方法の説明の際は、口頭だけでなくパワーポイントを用いたり例を出したりしながらできるだけ丁寧に行うよう心掛けた。	ながら行うことができた」との意見が多く挙がった。授業の目的は概ね達成できたのではないかと考える。 「名札の作り方をもう少し詳しく知りたかった」との意見があったので、次年度は説明をさらに詳細に伝え視覚的に分かりやすくする等、工夫を加えていきたい。
基礎ゼミ	保1	前期	「保育のこころ」と連動し、現場体験を軸とした科目である。現場体験参加前は心構えの確認、参加後はグループディスカッションや発表を通し学びの共有を行った。また、体験内容をレポートにまとめ自己課題を確認する時間をとった。	授業評価では、各項目 4.4 以上の評価を得た。項目ごとの評価ポイントにおいて大きな差異は特に見られなかった。 学生のコメントでは、「3名の教員が常時机間巡視し、質問しやすい環境だった」といった内容が多くあった。複数教員で担当しているため、普段より授業内容の打ち合わせを綿密に行い、共通認識を図れるよう意識をしているが、今後もより一層教員間の連携を強化していきたい。

氏名 仲谷 徹子

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
ピアノⅠ	保1	通年	既存のアレンジ楽譜が難しい対象者に対して、アレンジ楽譜B+を準備し練習に取り組み易くした。	授業評価では、各項目について4.1 から 4.5 の評価を得た。【授業の成果について】では、課題に意欲的に取り組んだのポイントが 4,5 あり、更に意欲的にピアノに対する意識が高まるよう説明をして行きたい。講師の先生にも授業の連絡を密にしてこれからも連携を図りたい。
ピアノⅡ	保2	通年	音楽学習発表会に意欲的に参加できるように、実習前に曲を渡すなどの配慮をした。	授業評価では、各項目について4.1 から 4.5 の評価を得た。【授業の成果について】では、新しい知識・技術・能力が身についたが 4.58 ポイントあり、次年度も、卒業後に活かせる技術にしていきたい。個人に合わせた弾き歌いの曲は簡単にアレンジしたものを用意するようにしたい。
ピアノ再履修Ⅰ	保2	通年	既存のアレンジ楽譜よりも簡易なアレンジC楽譜を用意した。12 月ごろに後期試験に間に合う状態であるかどうかを、個人的に面談して意識付けをした。	授業評価では、各項目について4.2 から 4.46 の評価を得た。再履修生の理解度をよく見極め、更に意欲的に取り組めるように個々に合わせた課題を提供できるようにしたい。

基礎演習	保1	前期	ピアノの弾き方だけではなく、初歩的な楽典の説明を丁寧に行った。ML教室のヘッドホンで一人ずつ聞いて、個人に合わせたレッスンをを行った。	授業評価では、各項目について4.47～4.72 の評価を得た。楽典の説明では、拍子やリズムの取り方など大きく書く、何度も復習するというルーティンをこれからも継続して行って行きたい。授業では聞きにくいことも、質問に来るようコミュニケーションを図るようにしたい。
パーカッション I	保2	前期	卒業後に役立つ楽器の知識・演奏、合奏などへの知識が深まるようパワーポイントや CD を使用して理解が深まるようにした。	授業評価では、各項目について3.75 から 4.75 の評価を得た。音楽学習発表会に向けての意義や、アンサンブルの楽しさを共有出来るように解説や楽譜の提供をして行きたい。
パーカッション II	保2	後期	リズム打ち、リズム楽譜の書き方などの練習を行った。合奏の基礎的な知識を何度も課題曲を使用しながら体験した。	授業評価では、各項目について4.1 から 4.5 の評価を得た。学期の正しい奏法や使用法などに理解が深まるように今後丁寧な説明をして行きたい。

氏名 石川 裕子

<sup>1)</sup> 担当科目 名称	<sup>2)</sup> 担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
保健体育 実技	生食1	通年	学生の動きを動画撮影し、その場で、動画を見ながらフィードバックを行った。 また、上級者の動きを動画で見せ、イメージを膨らませた状態で実践に移った。	授業評価から、リズムトレーニングやストレッチなど、中高の体育の授業では実施されていない内容に興味を示してくれていたように感じた。 次年度も、より学生が興味を持てるよう、手軽に出来て楽しめる内容を取り入れるようにしたい。
保健体育 講義	生食1	前期	学習した内容を、学生が説明し、動画撮影を行い、それを用いてフィードバックし、より定着させるよう心掛けた。	授業評価から、応急処置については、動画を用いたり、実演したため、より頭に入ったということだった。また、一度の授業内容で学習する内容が多いことや、スライドの切り替えが早いというコメントがあったため、次年度から対応していきたい。

氏名 大道 えりつ

<sup>1)</sup> 担当科目 名称	<sup>2)</sup> 担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
保育のこころ	保1	前期	保育者を目指すために必要とされる基礎技術や、現場に入るための心得を身に付けるための授業であるため、以下のことを意識して授業を実施した。 ・手作り名札、手遊び・折り紙	授業評価では、各項目について4.48 から 4.65 の評価を得た。現場体験を中心に授業設計を行っているため、取り組む課題が明確で学生にわかりやすかったことを個別のコメントから伺えた。ビジネスマナーや幼児の発達段階

			<p>等の課題提示をする際、良い見本を視覚的に示しながら説明を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場体験においての準備物を実際に持参してもらい、一緒に確認する、ビジネスマナーなども口頭の説明のみならず、実践練習を行うなど、学生が安心して現場体験に行けるように確認作業を授業中に行えるようにした。</li> </ul>	<p>などの講義形式の内容と合わせて、実習において必要な手遊びや折り紙なども取り入れているため、「授業の評価について」の項目では「授業に意欲的に取り組んだ」が4.6、「技術、能力が身に付いた」が4.58と他の項目より高い評価につながった。個別のコメントから、「名札の作り方をもう少し詳しく知りたかった」などの意見もあり、次年度は学生の苦手さに対するフォローや説明後の質問時間を設ける等ができるように心掛けたい。</p>
基礎ゼミ	保1	前期	<p>現場体験を行うのみではなく、体験から学びを深められるように3回の体験のうち、2回が終了した時点でグループディスカッションと発表を行える場を設けた。他グループの学びを知ることや、最後の現場体験で意識すべきことを確認できるように発表後、各グループにコメントを行った。また、活動において不明な点がある時はすぐ質問できるよう、授業中に学生の進捗確認を行うようにした。</p>	<p>授業評価では、各項目について4.48 から 4.65 の評価を得た。【授業の成果について】に関する評価が特に高いことから、学生が授業の学びが現場で役に立っていると実感できたことがわかった。また、個別のコメントで「学生に近い距離で対応してくれたのでとても分かりやすかった」という感想があったものの、「難しかった」という意見もあった。上記の感想を踏まえ、次年度は引き続き学生が相談しやすい、質問しやすい体制を作りつつ、学生同士の交流や助け合いができるよう、情報共有の場や時間を作っていきたい。</p>
キャリアデザイン	保2	前期	<p>オムニバス形式で実施した授業であったため、担当した「保育職の就職活動の実際」や「就職活動に必要な文書」において以下のことを心掛けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動の流れ等の全体像の説明を行った後、書類作成、面接などの詳細を就職の手引きと合わせて説明を行った。</li> <li>・パワーポイント資料に「求人票」「お礼状」など実物が確認できるよう視覚的に提示しながら授業を実施した。</li> </ul>	<p>授業評価では、各項目について4.0 から 4.4 の評価を得た。【授業の内容について】の「授業の目標がわかりやすく示されていた」が4.08、【教員の教え方について】の「学生の理解に合わせて授業が進められていた」が4.01 と、他の項目と比べて評価が低かったため、各授業の活動目的や課題をより学生にわかりやすいように提示する必要があることがわかった。個別のコメントでは「面接、履歴書の書き方をするって話を聞いていたのに1回しかしなくてこの授業の意味がわからなかった」ことや「先輩保育士、卒業生の声や働いて見ての感想など知る機会がほしい」などの意見があったため、応募時に履歴書がある程度完成できるように授業設計を行い、就職活動においてどんなことを意識したらいいのか、前年度の就職活動の流れ等のリアルな情報提供をできるようにしていきたい。</p>
幼児理解と	保2	前期	今年度は、学生が就職後に子	授業評価では、各項目について

教育相談支援			<p>どもや保護者対応を実践的に 行えることを中心に以下の授 業改善を試みた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理論的な説明を行った後、 事例検討のみならず、保育現 場の映像を見せ、見た子ども の姿や保護者の反応に対して どのような対応が望ましいのを 考える時間を設け、解説等を行 った。</li> <li>・現場で実際に合った事例や 失敗談を講義に盛り込むよう にし、学生が保育者だった場 合、どのような対応を行うか等 考える時間を設けた。</li> <li>・パワーポイントの資料の文字 を減らし、重要なポイントを太 字や下線等で示すようにした。</li> </ul>	<p>4.4 から 4.7 の評価を得た。【授 業の成果について】の項目に関 して「意欲的に取り組んだ」が 4.55、「技術や能力が身に付い た」が 4.52 と、前年度と比べて 0.2 ポイント高かったことから、実 践的な内容を取り入れたことが 学生に学びを実感できること につながったことが伺える。個別 のコメントでは、「グループワーク などもあり、楽しく意見を深められ ました」という感想からも、意見交 換の場を設ける等は学びや気づ きに繋がるため、次年度も引き 続き実践していきたいと考える。 また、Google クラスルームを活用 し、授業の感想や学びを授業終 了アンケート等用いて実施し、授 業内容を学生の興味関心を反 映できるための工夫を行いた い。</p>
子育て支援	保2	後期	<p>初めて担当した授業であるた め、以下のことを意識して授業 を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始時に、前回授業の 復習と新たに学ぶ授業内容と その目的を端的に説明した (それぞれパワーポイント 1 枚 程度)</li> <li>・事例検討などグループワーク を毎回の授業で実施し、各グ ループの結果共有や事例に おいて大事なポイントを伝える 等のフィードバックを行った。 (事例検討は、Google スプレッ ドシートなどで検討内容を記 載してもらい、クラスルーム上 で全員が見られるようにした)</li> <li>・テキストの付録ワークシートを 課題にし、学生が授業の学び を復習・振り返ることができるよ うにした。</li> </ul>	<p>授業評価では、各項目について 3.8 から 4.5 の評価を得た。【教 師の教え方について】の「学生 の理解に合わせて授業が進めら れていた」項目に関して、1 つの クラスは 3.8、もう一つのクラスは 4.2 と評価に差が見られたため、 それぞれのクラスの学生に合っ た授業展開や説明を行うことが 課題であるとわかった。次年度 は学生の理解度や様子に応じ て授業展開を行えるよう、質問時 間を設け、課題を口頭で説明す る以外にも、クラスルームに載せ るなど、学生が視覚的に授業の 進捗や課題の確認できるように していきたい。また、個別のコメ ントから「他の授業で学ぶ内容が 重なる部分があり、新しい学びが 少なかった」意見があったため、 次年度は教科書変更や事例の 見直しを行うと同時に、学生同 士が興味のあるトピックスにつ いて調べ、意見交換や発表がで きる場を増やし、興味関心を持 てるように授業を展開していき たい。</p>

氏名 渡辺 直人

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
保育・教職 実践演習	保 育 科 2 年	後期	PowerPoint の文字を大きくし、 見やすさを追求した。	一部、学生に対して周知の徹底 が十分ではない場面があった。

(幼稚園)			また、ゲストティーチャーと連携し、少人数によるきめ細かい授業を実施できた。	やるべきこと、なすことを明確にし、的確に指示できるよう、来年度には入念に準備をしたい。 また、一部ゲストティーチャーと分担する場面がある。本年度は特に問題は起きなかったが、引き続き意志の統一を徹底し、よりよい授業にしていきたい。
教育課程論	保育科1年	後期	前次復習レポートを毎回授業序盤で行った。知識の定着を図った。また、授業終了前に必ず振り返りシートを書かせた。	保育内容総論とともに、板書の量が多いこと、文字が見にくいことが指摘された。次年度にはこれらを改善し、見やすさを徹底し、なるべく負担を軽減できるよう、電子機器などを工夫し活用していきたい。
保育内容総論	保育科1年	後期	前次復習レポートを毎回授業序盤で行った。知識の定着を図った。また、授業終了前に必ず振り返りシートを書かせた。	教育課程論とともに、板書の量が多いこと、文字が見にくいことが指摘された。次年度にはこれらを改善し、見やすさを徹底し、なるべく負担を軽減できるよう、電子機器などを工夫し活用していきたい。